

幼 兒 教 育



第 三 卷 第 三 號 第 三 號

東 京 女 子 高 等 師 範 學 校
日 本 幼 稚 園 協 會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 (再版)

觀察の實際

菊判一三〇頁
定價金壹圓
送東京金六錢
市内金九錢
料其他

○觀察の實際については何か参考したいといふ御希望は皆様から常に伺ふ所、本書はその爲に最も適切親切なる書である。

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集 (四版)

菊版三五〇頁 定價金壹圓五拾錢
送地方料市内金六錢
地方・北海道・臺灣・滿洲
料太・朝鮮・滿洲 金拾五錢

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

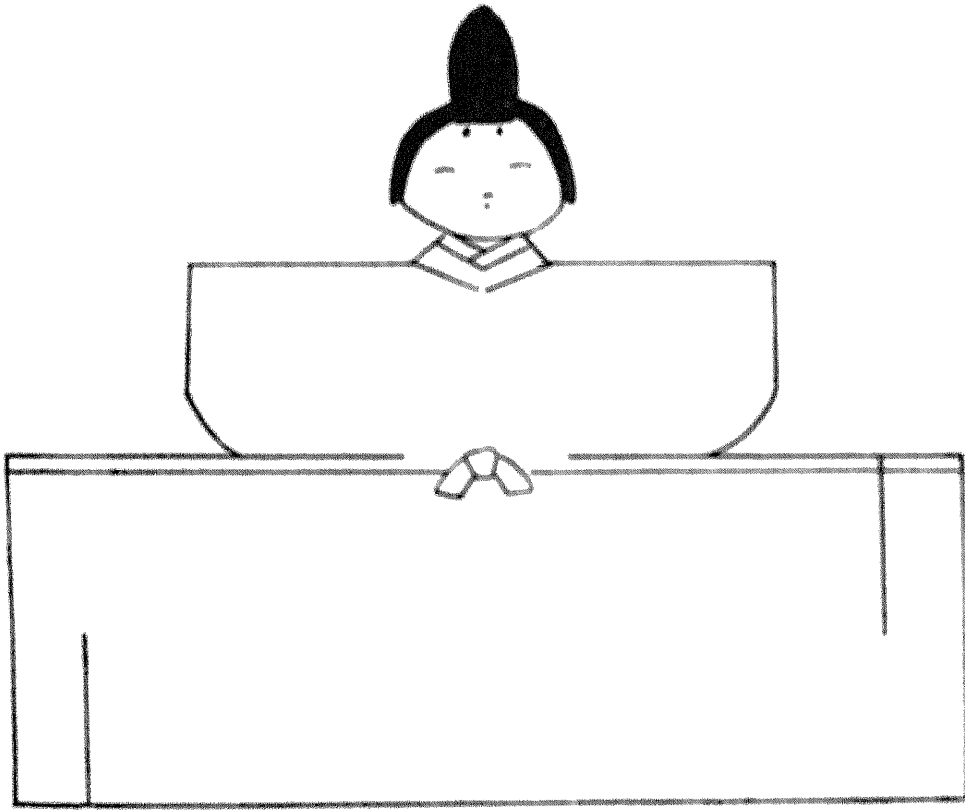
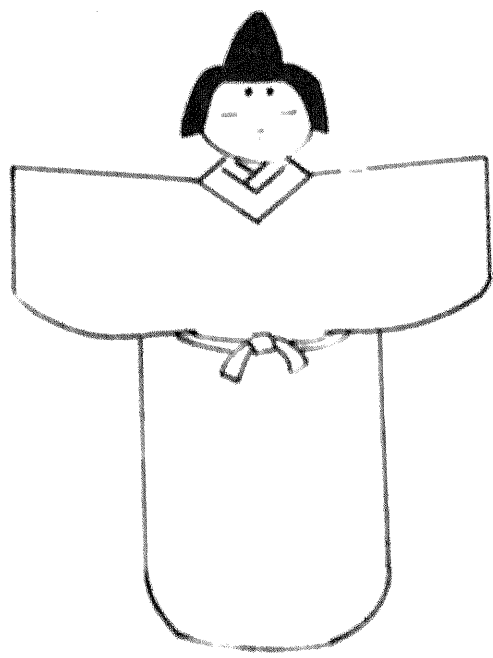
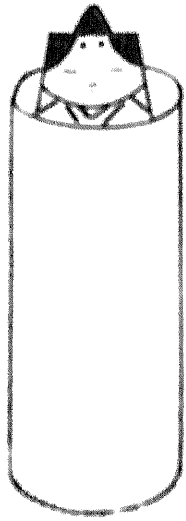
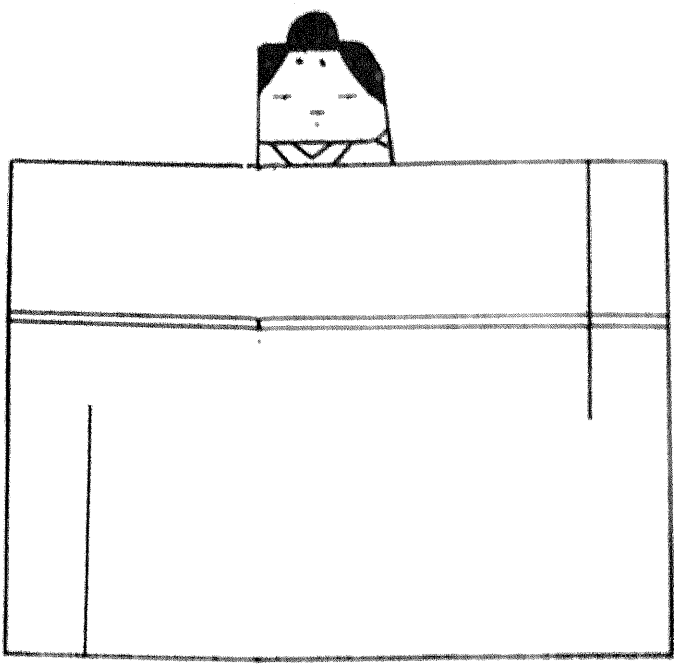
系統的保育案の實際 (四版)

定價金壹圓
送料金六錢

幼兒の教育 (月刊)

一ヶ月 金參拾五錢 送料金一錢
一ケ年 金四圓貳拾錢 送料共

虫 未 上 り 図



生徒募集

一定員 七拾名

一出願期限 三月末日迄

規則竝ニ入學案内ハ三錢切手封入申込マレタシ

東京市品川區大井原町五二〇八(省線大井町驛ヨリ城南バ
スニテ原停留場下車二分)

東京昭和保姆養成所

所長 土川 五郎

顧問兼講師 倉橋 惣三
東京女子高等師範教授

生徒募集

一、募集人員

一百名

一、出願期限

自二月十一日
至三月三十一日

無試験檢定ノ特典アリ

規則書入用ノ方ハ參錢切手封入申込マレタシ

東京市杉並區高圓寺三ノ二九八

聖心學園内(電話中野二四八四)

省線高圓寺驛 青バス 西武電車高圓寺三丁目下車

東京保姆專修學校

佛教保育協會

中野保姆養成所

東京市中野區宮前町 電話中野五八七〇番

△定員 六十名

△保姆無試驗檢定

△締切 三月二十日

△寄宿舎完備

△今度附設ノ感應幼稚園ニテハ皇紀二千六百年記念事業トシテ

榮養給食ヲ實施セルニ付保姆科生徒ニ於テモ給食竝割烹ヲ正

科目トシテ課スルコトニ致シマシタ

△交通ハ省線新宿驛ヨリ五分デス

學則請求要三錢

保姆生徒募集

一、募集人員 六拾名

二、出願期日 二月一日ヨリ三月中

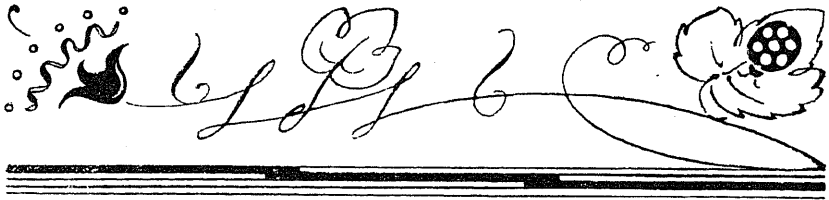
三、入學案内 入用の方は參錢切手同封申込ありたし

昭和十六年一月

東京目白保姆學校

所在 東京市淀橋區下落合三丁目一三八八
電話 落合長崎二五五九番

校長 和田實



號三第 育保の兒幼 卷一十四第

—(次 目)—

扉

國民幼稚園の名に於て(一)……………倉橋惣三(一)

兒童研究法講義(八)……………松本金壽(二)

科學教育と幼稚園—座談會(一)……………(二七)

毎日の保育問題……………上澤謙二(二七)

三月の保育……………及川ふみ(三)

ふしぎあそび……………清水光子(三三)

各地保育 三重縣中部保育會の活動狀況……………鈴木武治(二六)

フレーベル賞入選童話

みづぶく……………真木喜久子(三)

子供は風の子……………荒井玄乃(四)

幼兒の母……………(四)

月刊「幼兒の母」に就て……………(四)

幼兒の衛生(三)……………萩原兼文(四)

倉橋惣三編 (新刊)

新體幼稚園唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金七拾錢

目 日本的旗日の丸の旗
次 道 ぶ し ん
倉橋惣三 作曲
小松耕輔 作詞
井上武惣士 作曲

い う び ん や さ ん
弘田龍太郎 作曲
倉橋惣三 作詞
渡し場の船頭さん
倉橋惣三 作曲
中山晋平 作曲
火消しのなごさん
倉橋惣三 作曲
小林つや江 作詞

日本幼稚園協會編 (新刊)

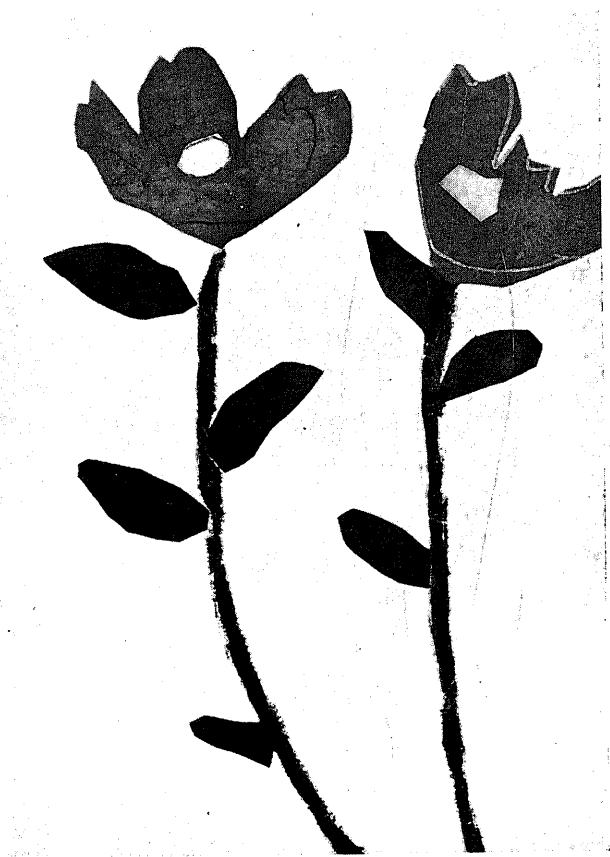
幼稚園新唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金五拾錢

目 め だ か
小山村耕輔 作曲
小松耕米 作詞
次 杉山耕輔 作曲

ほ た る
青山綾子 作曲
小松耕輔 作詞
ふ し ん 場
小松耕輔 作曲
氏原鏡 作曲

○この二つの新刊幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歓迎せらるることを期待してゐる。



早春の南の國の眩ぶしいほごに青い空を背景にして見る真紅の椿の花は、（一と息に讀み下して下さい）、そのべつとりと肉付き豊かな花瓣のかたまりが、重つたるく太い區切りに浮び上つて、どうしても、厚味のある本いよまゝの切り紙より繪の趣きです。子どもに、そんな風流はないでせうし、なくていいのですが、この作品を見てみると、たゞの繪にしかかつたところが、一寸心憎くならずにみられません。勿論、色のある原作です。但し當節の、質の悪い、べら／＼の色紙なのは、折角の工匠に、氣の毒です。（倉橋生）

國民幼稚園の名に於て

(二) 就學前國民教育の統一及多樣

倉橋惣三

幼児保育施設は、その傳統を實狀の如何に拘はらず、一切が國民鍊成をその要旨となす以上、就學前の國民教育施設として一本たるべきものである。その準據たるべき法規も、その管理の系統も、國家として一元たるべきである。若し、從來の發生に於て多岐であり、現在の制度に於て併立或は對立的なるものがありせば、それは速に改めらるべきであり、統合せらるべきである。

幼稚園は中産以上の家庭のものであり、保育所は中産以下の家庭のものであると言つた見方が今も尙ほ去らない觀があるが、いつれの施設の本質にも觸れてゐるものではない。殊に、大正十五年の幼稚園令は、從來、保育所の社會的必要をせられた理由を、幼稚園の社會的必要の理由として示して居り、少くも我國の幼稚園は、社會的施設たることをその一本質としてゐることを見なければならぬ。更にまた、現今の趨勢は、保育所を以て必ずしも往時の所謂社會事業施設たるよりも、社會普遍施設たらしめ來つてゐるのである。即ちこの二つの施設が制度的に併立せらるべき理由は全くない。況んや或る種論者のいふ如き對立觀は、餘りにも無意味である。人或はいふ。幼稚園は社會施設であり、保育所は社會施設である。敢て問ふ、對象を兒童とする限り、教育施設は社會施設は何の別があり得るか。それありせば、僅に著手の動機に於て別ありせざるゝところがあるかも知れないが、施設として行はれてゆく本質に於て、決して分離的進行を許されない。兒童のための施設にして、單に社會的保護のみであつて教育的でないものが、いづこにその存在をゆるされよう。又、教育的關心に専らなるものとしても、その必要に對して社會的保護を怠ることを如何で許されよう。國民幼稚園は、さこまでも就學前國民教育施設たるの本旨に基いて保育しようとするところをあらはす。幼稚園、保育所、その名にこだわるものでないが、教育性を主とせざるを強調したりすることのある名稱よりは、教育性を守り來つた名に於て、教育精神を忘れまいとするに他ならない。

但し、國民幼稚園は、その國民幼児保育施設としての本質を一つにするに雖も、否、本質的普遍を一つにするが故にこそ、その施設實際は極めて多樣なるべきものである。半日保育もあり、終日保育もあり。有料もあり、無料もあり。それらの實際に於て、社會的保護性の多きものあり、少なきものあり。その環境に即し、その家庭に即し、その幼児に即して、充分に多樣であつてよく、存分に多樣でなければならぬ。國民學校の如く統一的にして、國民學校よりも多樣でなければならぬ。

兒童研究法講義 (八)

第四高等學校教授 松 本 金 壽

幼兒の記憶

記憶といふ働きは、人間の精神生活にまつて極めて大切な一面であることは云ふまでもありません。私共の日常生活の中から、その部分を取り出してみても、過去の経験の影響——つまり記憶のお蔭によらないものは恐らくないこと云つてよいでせう。日々に新にさいふふこことが云はれますが、それは全くの白紙の上に新しい色づけが加つてゆくさいふやうな性質のものではなく、長いなり短いなりに、夫々の人々が續けてきた過去の経験さいふ土臺の上に築き上げられてゆく上層建築に過ぎないわけです。私共の日常生活から記憶さいふものを取り去つて了つたならば、生活は

おろか、生命の維持さへ覺つかないこと云へませう。

そんなわけで、記憶さいふ働きについては昔から色々の説明が行はれてきました。記憶の良否は人間の能力を定める標準であるやうにも云はれましたし、又人間と動物とを區別する境目であることも論じた人があります。今でも記憶がよいこと云ふことは頭がよいこと同じ意味に使はれることが少くありませんし、忘れっぽいこと云ふことは駄目な人間だといふやうな意味ばかりでなく、一種の不徳義でさへあるやうな響きを與へがちです。このやうに記憶さいふ問題は、人間の精神生活を考へる上に非常に大切な意味が認められてゐますが、それでは記憶さいふ一體どんな性質の働きを指すのでせうか。

砂糖を見れば誰でも甘いと思ひ、火を見れば皆熱いと思

ふやうに、私共の日常生活は殆ど凡て過去の經驗の影響の上に成り立つてゐるこいふことは、前述した通りですが、記憶を云ふ意味を、こんなに廣く解釋するに、私共の精神生活は凡てみな記憶でないものはありません。そればかりでなく、動物や植物にも、そして石や水なにも記憶があるを云はなければならなりません。心理學が發達しない昔には、こんな考へも行はれてゐましたが、精神作用について細い研究が進んだ今日では、記憶を過去の經驗の影響と同じやうに考へる大まかな考へ方は許されなくなりました。

御承知のやうに私共の精神生活は、記憶の外に知覚もか學習もか思考もか感情もか意志もか、色々に別けられてゐますが、是等のものも並べられてゐる記憶の働きは、普通次のやうに定義されてゐます。即ち、或る一定の印象をしつかり覚え(記録)、それを一定の間忘れないで居つて(把持)、あとで想ひ出す働き(再生・再認)、つまり記録把持・再生・再認といふやうな四つの働きの時間的な連續を指すものだといふのが一番正しい見方です。それですから、記憶といふ働きには、見たり聞いたり、話したり考へたりこいふやうな色々な働きも含まれてゐるわけですが、たゞ違ふところは、是等の經驗が一定時間後にもハッキリと想ひ出されるを云ふ點にあるわけです。言葉を換へて云

ひますに、着物を着たり、食事をしたり、話をしたりするやうな日常生活そのものを指すのではなく、或る特定の印象なり問題なりについて、「これはどこで見たものだ」さか、「あれはいつか教つたことだ」さか、特に過去に結びつけられた經驗を指すものだと云ふことが出来ます。もつ言葉を換へて云ひますならば、學習といふことの裏の事實だとも云ひませう。私共の日常生活の土臺をなす衣食住の問題などは、絶えず反復されるものですから、特別の努力なしに誰でも覚えられますが、學問上の智識も職業上の技能もかは、一生懸命勉強しないに吞み込めるものではありません。家庭・學校・社會といふやうな色々な方面における學習といふことが起るわけですが、斯うした學習は次々に積み上げられて一つの完成したものになるのが普通です。それ故、學習の進歩には記憶の裏づけがさうして必要なわけです。記憶といふ働きを昔のやうに廣く解釋しないにしても、人生における重要さは依然として同じです。殊に經驗的には極めて稚い幼児の教育にまつて、記憶を明確にしたり、増進したりする技術は頗る大切な問題の一つと云へませう。

二

昔から、そして今でも色々な意味に使はれてゐる記憶といふ働きについては、極く大體の説明を致しましたが、そ

れでは幼児において、これがきんな姿をなし、きんな形で發達するものでせうか。初めに先づ大體の傾向を述べてから研究法に移りませう。

未だ物のあやめも見分けがつかぬ嬰兒には記憶なきといふ働きが起る筈はありませんが、それでも人見知りを覺える頃には記憶の芽生えが認められる云つてよいでせう。

見慣れてゐるものと新しいものととの區別や、自分の家とその家の區別等も、その現はれの一例と見ることが出来るでせうが、本當の意味での記憶の發達は言葉の發達に伴ふものだと云ふことが出来ます。私共の經驗といふものは、直接眼の前のものでない限り、輪廓や要點として残るのが普通ですが、事物の要點を象徴した言葉といふものは、丁度それにふさはしい道具なのです。私共が過去の經驗を追想してみた場合に、大抵の人は五歳頃と六歳頃との印象深かつたこと、精々のところ三歳か四歳頃までのことしか辿ることが出来ないのも、言葉の發達と記憶の成立との間に深い關係があることを暗示してゐます。それ故、人間の記憶は、言葉の發達する幼児時代を出發點とするものだと云つて差支ないと思ひます。

それならば、どんな經驗内容が記憶され易いかと云ふことが、次の問題になるでせう。それについては感情價と具體性との關係が擧げられてゐます。つまり感情的に強い印象とい

ふものは、それが愉快なものであつても不愉快なものであつても、強く把持されるものだと云ふことが第一の特色として説かれてゐます。このやうな傾向は何も幼児に限つたことではありませんが、特に幼児にはこの傾向が強いのです。これは幼児の生活が情意に充たされてゐることに大きな原因を持つものですが、此の傾向を逆用したものが體罰でせう。第二の特色として擧げられてゐる具體性、つまり具體的のものしか記憶され難いといふ傾向についても、説明を要しないと思ひますが、これは幼児における知性の未發達に因るものです。幼児に興味を持たせるといふことが、具體的直觀的に話すことを意味してゐるやうに、幼児自身の生活に即した導き方が保育の要諦とされる所以もここに關係してゐると思はれます。又記憶の仕方が分析的でなく全體的だといふ點も同じ原因に基いてゐる次第です。幼児が覺えてゐる歌や話の内容が、初めから終りまで一続きのものであることは、誰も御存じのことと思はれます。

幼児の記憶内容と關聯して、兒童特有とも云ふべき直觀像現象について一言して置きます。直觀像といふのは、一旦見たものが取り去られても、そこにあり／＼と見える現象を指すのですが、斯ういふ經驗は殆ど凡ての幼児に認められる一般的な傾向だとされてゐます。色も形も大きさ

も、さながら元のものに對するに同じやうに、生き／＼に蘇つてくるに云はれる直觀像現象は、見たもの(視覺像)に想ひ浮べたもの(記憶像)がハッキリ區別される私共大人にまつては、むしろ奇妙な經驗のやうに思はれますが、

これも知覺に記憶さか精神作用が細く分化しない幼児特有の心の現はれに云ふことが出來ます。幼児が同じ物語を何遍でも／＼繰り返して讀んだり聽いたりしても倦きないのは、私共のやうに物語の筋を追ふだけではなく、物語の内容を現實的にあり／＼に想ひ浮べるに云ふやうなころにあるやうにも思はれ、直觀像現象といふものは、幼児教育上の新しい問題ではないかと思はれますので、一言附け加へて置きます。

三

前置きが少し長くなりましたが、最後に幼児の記憶研究方法を述べることに致します。

試験さか考査等も一種の記憶検査に相違ないのですが、試験や考査です、覺えた時を想ひ出させた時との間に色々な條件が入つてきて、ハッキリした結果を見出すことが困難になりますので、やはり特別な材料(刺戟)を作つて實驗してみる必要があります。前にも申しましたやうに、記憶といふのは記銘・把持・再生・再認といふやうな複雑な精神作用ですから、一口に記憶がよいさか悪いさか云つて

も、漠然とした調査では、記銘が悪い爲か、把持に缺陷があるのか、再生に不備があるのか、原因を確めることも難しい次第ですが、精確な實驗によります、そこにはハッキリした原因を突きさめることが出來ます。

記憶の實驗法を先づ調べる材料つまり刺戟の方から云ひます、直觀的なものに言語的なものに分けることが出來ます。直觀的な刺戟としては、色々な圖形さか繪畫さか寫眞さかが擧げられるでせうし、言語的な刺戟としては數字さか文字さか詩や文章等が擧げられます。是等の刺戟材料を作る時には、個人々々の經驗の影響の度合にムラがないことが大切ですから、餘り有りふれた出來合のものでなく、新しい工夫を組合せ方が考へられなければなりません。若しも、或る特定の子供だけは何遍も習つたことがある刺戟材料です、他の子供達には不公平になるわけですから。

斯うした刺戟材料を一定の時間見せたり(直觀的な刺戟の場合)、又は讀んで聽かせたり(言語的な刺戟の場合)して、それをすつかり覺えるまでの時間を計つたり、覺えるまでに反復した回数を比べてたりする方法が一番多く用ひられますが、たゞ一遍だけ讀んで聽かせり、極く短時間見せたゞけで、その位覺えたかを調べる方法も一工夫でせう。又直觀的な刺戟の場合には、後でその刺戟内容について色

色のことを云はせたり、見た通りのものを描かせたり、新しい材料の中から前に見せたものを指摘させる方法が伴ひます。

刺戟材料の組合せ方も簡複色々に變化出來ますし、刺戟を提示する時間も、幼児の精神發達の程度に應じて、長短色々に加減しなければならぬことは云ふまでもありません。又直觀的な刺戟材料の際に述べたやうに、一定の時間見せてから、三十分後さか二時間後さか一日後さか十日後さか、段々時間の經つにつれて、一旦記憶したものがみんなに變つてゆくかを調べることも興味ある一方面でせう。

こんな風にして、どんな刺戟材料が覺えられ易いかさか、さの位の分量が覺えられ易いか、同じ刺戟材料のどんな所が覺えられ易いか等を調べられますし、又個々の子供の記憶力の違ひもハッキリ比較が出來ます。

一般的に云ふさ、同じ刺戟材料でも初めさ終りさは誰でも覺え易いものですし、一遍に何度も繰り返すより、二度さか三度さかに分けた方がしつかり覺えこまれるものですし、一纏りのものならば、餘り細く分けて切々にしてやるよりも或る程度全體のまゝ、教へた方が能率的ださいふやうなことが豫想される結果さ云へます。いつれにせよ、斯うした記憶傾向に即した教へ方が最も效果的なわけですから、色々の點で御研究を切望致します。

たゞ最後に附け加へて置き度いことは、記憶力さ智能との關係です。昔から頭のよいものは記憶力もよいさ考へられてゐますが、私共の研究によつても、これは確かに間違ひのない事實さして證明されてゐます。が然し、これには一つの除外例があります。つまり機械的なことの暗記は必ずしも智能に關係しないさいふ一事です。現に精神薄弱兒の中にも、カレンダー博士さ云はれるやうな超人的な日附の暗記の大家が居ります。

誤つた手がかりが話の筋をもつれさせて解決を延ばしてしまふことは探偵小説の讀者のよく知る處です。直觀の命する推理法が誤つてゐて運動の間違つた觀念に導き、この觀念が何世紀の間も行はれたのです。このやうな直觀が長く信じられてゐた主な理由は恐らくアリストテレスの思想が全歐洲に有力であつたからでせう。二千年間彼の著書と考へられて來た「力學」書の中に次のやうに書かれてゐます。

運動體は之を押す力がその動きを失つた時に靜止する。

ガリレイが科學的論理を發見して之を用ひたと言ふことは思想上の最も重要な大業の一つであつて、これが眞の意味に於ける物理學の第一歩となつてゐます。ガリレイの發見は、直接の觀察に基づく直觀的結論は誤つた手がかりに導くことがあるから必ずしも信用が置けるものではないことを私たちに教へたのです。

——物理學はいかに創られたか(アインシュタイン原著)より——

科 學 教 育 と 幼 稚 園

會 談 座

「科學する心」と幼稚園

堀 中心問題は何ですか

菊池 「子どもに科學心を養成する事に
ついて」云ふ題を申上げて皆様に御
案内したのです。皆様いろ／＼具體的
の問題をお持ちの様ですが、はじめ近
頃云はれてゐる「科學する心」さいふこ
こを幼稚園期に於てさう解釋したらよ
いかさいふ事から伺ひ度うございま
す。

堀 さあさうするのかな、まあ子どもは
極く素朴な形で自然物自然現象をみ
る。それは大人より一層旺盛と思ふ。
で文部大臣のいはれる「科學する心」の
中には入らぬかも知れぬが手に觸れる
もの目に映るもの凡て新しいものだけ
ら、素直に感覺器官を働かせて觀察研
究させるのが最も大切だ。その時、大
人が教へるさいふこを少しでも考へ
てはいけない。むしろ子どもをみるの
をだん／＼發展させていく間に指導の

出席者（五十音順）

堀 七藏氏

下谷、竹町幼稚園	鎌田 さん
日本橋、千代田幼稚園	加茂川 シゲ
麴町、麴町幼稚園	柴田 みどり
神奈川縣大磯幼稚園	須子 啓子
麴町、番町幼稚園	徳久 智江子
巢鴨、十文字幼稚園	留岡 よし子
下谷、黒門幼稚園	早塚 文
小石川、大和郷幼稚園	坂内 ミツ
京橋、鐵砲洲幼稚園	穂積 篤子
京橋、月島幼稚園	蒔田 ソヨ
下谷、入谷幼稚園	松田 十和
日本橋、濱町幼稚園	水野 世ま
京橋、京橋幼稚園	山木 節
麻布、若葉會幼稚園	八木澤 ちげ
麴町、富士見町幼稚園	山村 きよ

主催者側

期日 二月八日
場所 於女高師附屬幼稚園

重點があるこ
思ふ。それで
一つ具體的な
問題で質問し
て下されば

山村 私は自分
自身科學に縁
遠い生活をし
て來たので何
から手をつけ
ていゝか、そ
れすら分らな
いのです。

堀 文相のいふ
「科學する心」
は出來上つた
科學或は出來
上つた科學的
知識を多く本
で讀んだり、
話で知つたり
するのをいふ

のではない。さにかく「科學する心」さいふのだから、研究する態度をいふ。其の時大人であればそこに疑問、問題があつてそれを解決する。自分で解決する。人にしてもらつたのでは人の研究で自分のにならない。解決する時に自然物、自然現象を實際に觀察し、實驗し今まで不明の原理、原則を見つける。又今迄あつた原理、原則を適用して新しいものをこしらへる。はじめの場合は發見で後のは發明である。子どもはさう判然疑問が出て來ない。小學校二三年の頃になるさ疑問を出す、幼稚園位の子さもでは「これはなあに」位で夫以上やかましい質問は出ない。だからさて子どもはみてるなにかさいふささうでない、そこが大事ださ思ふ。

菊池 その質問を内に持つてる態度を見抜くのが大事なのでございますね。

堀 子どもの見ようさしてゐるものを見させる。これを見なさい、さいふのでなく、ない時には材料を與へてやる。私がよくいふ話で、之は汽車の中で起つた事だが、東北線で、西那須野から乗つた客がある。世の人は宇都宮で降りるのだが、五歳位の女の子を連れてゐる。その子供が退屈して降りよう／＼さいふ。父は目的地まで行かねばならぬので、せがまれるのに困つてさにかく子供を安心させる爲に座席を立つた。立つさ子供は安心して

降りようさいふのを忘れ、父の手の指を數へ始めた。一ツ二ツさ數へ「お父さんの手も五つある」さいつた、之は發見である。自分の手の指が五つあるのは知つてゐた。子供だから手の指さいはずに手さいつたのだが。父はもう一方の手を出した。此方も五つあるさびつくりしてゐる。大人からいふさ當り前だが子供はその時始めて發見したので。右も左も五つあるのを發見したので。父がひよつさ裏返した。此方から數へても五つあるさびつくりしてゐる。大人からいふさ當り前だが其處が子供の生活の尊いさころである。子どもがさういふ風にして發見する。又子どもに實際觀察させ、子ども自ら發見させる。

それが子どもの「科學する心」の具體例ださ思ふ。手の指は五つあるものだ。何故そんなことをいふさいへば、子どもはする氣がなくなる。其處に犬がゐるさ犬の足の指は幾つあるさ子供がきく。その時答へない方がいゝさ思ふ。さあ幾つあるか、さいふ事で數へる様にしむける方がよい。そこに犬がゐなくて出來ないさいへば仕方がないが、成る可く犬のゐる所に連れて行く、そして前足の指は？ 後足の指は？ 人間さはさうかさいふ事から子どもは實際のものを判然さ見て、事物の觀念を得る。さういふ意味で國民學校初等科の自然の觀察もさせる。

水野 その時題目を與へるのはいけなないのでせうか

堀 出来ないでせう。

水野 では個人々々になりますね。

堀 いや、個人々々にはならない。例へば先生の顔で、髪は何方にわけてゐるか、目は？ 鼻の恰好は？ さいふ事で此處を見なさいさいはなくても見るから一齊にやつてよい。又さういはずに先生の顔について話してみなさいさいへば、さうしても見なくてはならない。今までうつかりしてゐたことを、話す爲に見る。先生を描けさいふに觀念畫を描くが子供ながら特徴を捉へる。私なさいは將棋の駒の様に描く。胴は太くかうなつてゐるよさい言つても駄目なので此處はさうなつてゐるか、ヒントを與へるのが良い。幼稚園の觀察もさういふのでよい。材料は成可く子ぎもが興味を持つもの、きれいなもの好きなもの等を選んで共通の材料にするさいふので良からう。之はかうなつてゐるさい教へる態度をさうなくてよい。

どうして雨が降ると訊かれたら

留岡 教へなくて済む時はいゝと思ひますが、さうもいかない時がございます。暮に、子供がさうして／＼と聞くなり柄をお母さん方に頼んで集めて見ましたら八十八集りしました。私の幼稚園は女學校校出の母親が半分位で中産の商業に従事する家庭の子が多いのです。さうして雨が降るの？ さ聞かれたらさうしたらよいでせうか。

堀 教へない。さあさうして降るんだらう？ さいいつて――

留岡 併し何を聞いてもさあ／＼さいはれてはもうきかなくなるのではないでせうか。

堀 いや、雨がさうして降るかを説明して幼稚園の子には分りますか。

留岡 分りません。

堀 保姆が逆立ちして教へても分らない。その時にはさあさうして降るのかさごまかすのでない、その子の疑問を將來にのこしてやる様にする。さあさうして降るんだらうさい先生がいつた時に他の子が天から降るさい――

鎌田 問題にするのですね。

留岡 これは家庭でなんです。

堀 家庭では母親がさうしたつて教へられない、吐つてはいけない、さあさうして降るんでせうねさいいつて雨の降る所を見させる。子供がきく時は降つてゐる時に定つてゐる。親切な母親なら一緒に降つてゐるところをみる。子供は本當は雨の降る理由をきいてゐるのではない。それで、空から降る、棒の様に降る、雫がさうはねるかをみせた方がよい。解釋したつて分らない。不親切な母の様に面倒ださいはねた方が子ぎもは科學する心をおこす、其の時説明するさい解決してもらつた様で、觀察しなくなる。

牛の角はどちらに曲つてゐるか

堀 牛の角が何方に曲つてゐるかにしても答へぬ方が観察する。實際氣をつけてみるに夫々違つてゐる方に曲つてゐるから、「そんな馬鹿な事を聞く、曲つてゐる方に曲つてゐる」さいつたら見る氣にならない。角は耳と何方が上か、繪に描く時は判然してゐなくては行けない。目、耳、角の關係的の位置の繪を描かうと思へば大切である。文部省の讀本に、「空が晴れた綺麗に晴れた、廣い野原で牛がなく」の畫を第一流の畫家に描かせた、所が其の人は牛の啼くポーズが分らない。辨當を持つて三里塚の御料牧場に行き牛の啼くの氣をつけて寫生した。初めは啼いたと思つて其方を見るさもう姿勢を崩す、そこで一匹の牛にらめつこをして遂に捉へた。其の插畫が今の讀本に出てゐる。併し夫を私がみるに嘘があつた。牛の乳房に嘘がある。大急ぎで何かしなければならなかつたが描き直しを頼むわけに行かず、六つあつたのを本當の數にして二つだけ抹殺した。大家でも必要なところだけにだけしか注意出来ないものである。現に今みてもさうなつてゐる。子供にものをみせる時、さあ良く見ろさいはずに之についてお話してみよさいつて話させ、又描かせる。表現はまづくても描く爲に良くみる。之は何うなつてゐるに疑問を持っては氣をつけてみる。初めに教へて

はよく見ない。

簡単な物の名稱は？

堀 之は何かさいふ名稱になれば、考へ様がないから之は何、何處から來たの？さいふのには知つてゐたら教へた方がよい。幼稚園時代の子には之は何さいふので、そのものゝ名稱を言はせ發音練習した方がよい。さうなつてゐるのかさいふのには答へない方がよい。見ればよいのだから、大人はみる様な機會をつくつてやる。材料のない時は用意してやる。注意すべき箇所は、此處は何うなつてゐるのかさいつて見させる。之は何故かさいふ事柄の事はそんなに説明しようとしても、それが理解出来る程度に大きくならなければ分らない。

雷はどうしてなるか？

堀 一年生が、雷はさうして鳴るか？ さ先生にきく、理由を言つても分らない、さあさうしてだらうさ先生がいふに、繪本をみてる子は、鬼が太鼓を叩くのださいふ。かういふのには「さう」だけでよい。

菊池 兄達から聞きかちつてゐる子は電氣ミ電氣がぶつかるのださいひます。

堀 それも、「さう」さいつてをく。

徳久 何方が本當さきかれます。

堀 私だつたら、それでは鬼の様なものをみたか、電氣ミ

電氣がぶつかるのを見たか、ご聞きかへすのです。する
ご子供は一步考へを進める。

電車とバスはどこが違ふか

堀 昨年小學校の檢定に斯ういふ事をきいた。「今朝何に乗
つて来たか」バス、電車といふ。「それでは電車とバスと
何處がちがふ？」ごごもの答へさしては子供のみた所を
表現するのが本當。夫が幼稚園で教へてもらつて電車は
電氣で、バスはガソリンで動くといふ、教はつて来たの
が分る。それよりはバスはレールがない、電車はレール
がある、ポールがあるといふやうに子供の觀念の内容に
あるものを答へる方がよい。電車には乗る所が二箇所あ
るがバスは一箇所、車掌と運轉手の事、車の大小の事、
又子供のいふのには前の方が違ふ。それはごごもが實際
みたのだから、そして電車の觀念とバスの觀念とを比較
してその相異を明白に出来るのですから十點を與へても
よいのです。

留岡 私は教へないのですが——堀先生のお話は良く分り
ますけれども、ごごかく電車が電氣で動くといふのを知
つてゐるが、それは知識にならないのでせうか。

堀 本當に知つてゐるのではない。本當の知識にはなつて
ゐない。動く力に疑問を持つ子があるが疑問を持たせて
おく方がよい。疑問を持たせておくごご次から次へ發展し

てゆく、

留岡 電車は電氣、バスはガソリンご知つてゐるのに鸚鵡
ご思はれてはつまりません。

山村 電氣、ガスといふ様な事は都會の子は相當分つてゐ
るのではないでせうか。

堀 みて本當に知つてゐるものもあるし唯鸚鵡返しに口だけ
のものもある、電氣はみんなものか。

山村 知つてゐてもうまいへない。——
坂内 何かの力で動く——

堀 力の觀念は早くから明白になるものではない。次第に
發達するものであるからそれを發達させなくてはならな
い。停電の時でも、大急ぎで電氣が來ないからご答へさ
に疑問を持たせておく方がよい。初等科一年の教師用ご
して「自然の觀察」ごいふ本をざり出される」つくつたも
の、中に「兒童の抱く疑問に對しては安價な解決を與へ
る事なく教師も一緒になつて解決する態度で指導する」
ごある。電氣はフランクリンが實驗するまで分らなかつ
た。電氣の正體はむづかしい、それを分つた様な氣持で
棚にあげるのがいけない。

加茂川 何さなく漠然ご放つて置くのが物足りないの
です。

堀 何さなく漠然ごしてゐても次第々々に明白になるやう

に導くこゝが頗る大切なのです。先生がはつきり分らせた積りで話しても説明してやつても子供には一度で明白になるものではないのです。

子供の數觀念

水野 去年の或學校の入學試験問題に蜜柑が五つある、それを二人で分けるのにはさうしたらよいかさいふのがあつたのです。家の人にきいたら、二つづつ分けて一つ残しておく、さいひ子供は全部むいて袋の數を數へ半分にするさいふ、私に何方が良いかさおたづねになつたのですが、さうしたらよいのでせうか。

堀 それは一年の問題にある。數の觀念を考へてゐるのではない。

水野 満點を頂く答へ方は？、

堀 さういふ場合半分にするさいふので分數の觀念を入れる。大人から聞いたのミ子供が其處で考へていふのミは違ふ。結果主義からいへば二つ半だが幼稚園や小學校の子で二つ半さいふのはない、そこまでいかない、迷ふ所で子供の考へる力をみる。皮をむいて袋の數を數へるさいふのは、六歳ではそこまでゆかない。其の子が自然に出來てるミすれば兄が家で議論したのを聞いてゐるのだらう。

水野 袋を數へるでは駄目でせうか、

堀 その時の子さの態度による。ビスケットを四つ出して幾つかさきく、すぐ四つさいふ子、目で數へていふ子、指で數へていふ子さがある。更に二つ出して、「みんなでいくつ」さきくミすぐ七つさいふ子でも七さいふ子さ七つさいふ子では程度の差がある。四つをもさにして頭で五つ六つさ數へる子さ始めから一つ二つさ數へる子、其處に程度の差がある。數へてゐる様でもそれは口だけで八つさいふ子もある。さういふ簡單なでも程度を見得る。

今年の檢定に斯ふいふものを出して見た。一つの積木ミその倍の高さの積木ミを出し、高い方の積木ミ同じ高さにするには小さい方を幾つ重ねたらよいかを問ひ、更に一ミ三、一ミ四、二ミ六の割にしてさいふやうな割の高さの積木で同じ高さにするには幾つ重ねたらよいかを問うた。初めから、相手にしない子があるが、それはそこまで發達してゐない爲であるが、さうも二つ分あるさか三つ分あるさか分らぬ子がある。

坂内 やつてみてもですか。

堀 え、やつてみても。四つになるさ愈々むづかしいミスーさいへる子ミ大分差がある。ビスケット四つ出して幾つさいふのは容易だが、拍手四つて幾つか、更に、三つ叩き皆で幾つさいふ問題は注意の要素が一つ入るの

で、さういふのでためすもまたがふ。子供の感覺器官を働かせて正しく認識して本當に數へられる。

一つ二つ三百まで數へられても數觀念が出來てゐるのでない。事物の觀念も同じで、明確な觀念は繪からも話からも得られない。實際に經驗したところからのみ得られるのである。

柴田 牛の乳房が幾つあるか判然した事の分らぬのは小さい時からさういふ教育を受けてゐない故でせうか、さういふのが育てられてゐない爲でせうか。

堀 一つはさう。それに現在必要がないと兎に角物事は判然しない。畫家は繪を畫く爲によくみる。ものをみて其の印象を表現する。

そこで疑問を成可く起させる様にしてそれを各自に解決させる事が必要である。大人が解決してやつては意味をなさない。曾つて牛と馬と何處が違ふか小學兒童に尋ねたことがある。するにその中に牛は乳を出す、馬は出さないといふ、そんな事はないだらうと私がいつた所が、でも牛の乳は飲むが馬の乳は飲まない、牛の乳房は大きいのがあるけれども馬には乳房がないといふ。先生は抽象的に牛も哺乳動物、馬も哺乳動物と知つてゐるだけで實際に馬の乳房を見た事がないからそんな事はないだらう、此の次まで調べて來よう、子供達にも見て來い

疑問を残しておく態度で其の儘教員室に歸り、訓導諸君にきく一人も分らない。分らない筈、それは動物の本に書いてないから。そこで動物學の教授を三十年もして居られる岩川先生に伺つた。するに先生はさあといつたきり、難て此の本にあるだらうと出して來られたのが、産馬大鑑といふ本、それをみるに書いてあつた。犬の乳は幾つあるか。

一同 八つ？ 六つ？

堀 犬のは種類により四つ位大きいのもあり五つ六つ八つ位大きいのもある。小さいのを數へてみないからで、それは本を見ようとしても書いてない、馬のは本を調べるに二つある。仔馬を生む時になるに人間の拇指犬になるといふ事が書いてあつた、それで私は分つた。併しそれは二つあるといふので想像したといふ丈、同じ分つてゐるのでも類似觀念でこんなものだらうと想像してゐる丈、所が其の後御殿場で馬方に見せてもらつた。馬方は見なくてもちやんま分つてゐる。始終扱つてゐて知らず／＼みてゐるから。さうなるに岩川先生より上手いふことになる。先生は實物を始終見てゐないから。人間は夫々必要に迫られてゐる時に分る。金魚の雌雄は本では分らない、金魚屋に聞いた方が分るといふ様なものだ。さういふ畫家でも畫く爲によく寫生した材料は判然して

るが、さうでないものは判然してゐない。我々も同じ。疑問が起つて解決せんとするのが研究心である。子供が疑問を起した時に安價な解決を與へず教師も一緒になつて解決する態度をさる習慣がついてゐるに、必要が迫るに觀察し解決する。

柴田 お話を伺ふに觀察するものゝ數が少くてよいので安心です。觀察といはれるにあれも之もさしなくてはならないと思ふのです。

堀 國民學校さへそれをしないといふのだから。或る時、かういふ問題を出した。牛と鹿とが違ふ。その答へに鹿には角があるが牛にはない(笑聲おこる)。又牛は反芻するが鹿はしない、牛の蹄は二つだが鹿は一つとある。前者は馬鹿げた事だが却つて鹿にない時がある。牛の胃袋は中等學校の理科の先生もみたことがない位である。反芻する事は繪や口で教へられてゐるから知つてゐる様で本當に知つてゐるのでない。牛の蹄もさうだ、鹿のはしかさみないから馬と同じに一つといふ。中等學校の動物の本を習ふからさういふ事になる。哺乳類の通性となつてゐるから、抽象的に一般原則として知つてゐる丈で具體的な内容が無いわけ、種類の所で、奇蹄類で馬、偶蹄類で牛の蹄と反芻の事が書いてあり、鹿の所では角の事しかないので判然違ひが分らない。

動物園に行つて見ても、鹿は角だけみて、蹄は見ないから分らない。併し、何處が違ふといふ問題で、さうしても書かねばならないので馬と一緒の一つと書いてしまつた。我々の持つてゐる知識は教へられてゐるので本當のものでない。小學校、幼稚園で教へられたのでなく、みて知つた知識は確實だ。

幼稚園期には、子供に出来るだけ五感を働かせて見させるのが大切で、それが觀察である。理科的の知識を教へる必要はない。

國民學校低學年の理科

堀 國民學校の一年から三年までは自然の觀察です。自然に親しませ自然の事で遊ばせつゝ自然に對する眼を開かせ考察の初歩を指導する。植物の栽培動物の飼育によつて生物愛育の精神を養ふと共に觀察處理の初歩を指導する。玩具の製作によつて工夫創造の態度を養ひ技能の修練をする。

例へば凧を作る。理窟をいふのではなく、凧を作つてあげてみる。誰のはよくあがるが自分のはうまく上からない、さうすればよいかさいふ風に工夫創造する様にしむける。内容は兒童の環境に於ける自然を觀察させるのである。私のところの學校では校庭にある事柄、往復の途中で見られる様な事にしか範圍を廣めない。内容は具體

的な様だが仲々さうでない。何しろ生活する場所が違ふのだから。

最初には「學校の庭」がある。「入學早々兒童に新しい環境に慣れさせる爲に校庭の目立ち易い草木や動物小屋や池の間をめぐりつゝ花壇の花に水をやり、小屋の兎や鶏や池の魚に餌をやる等、兒童の興味を元にして庭を一通り見まはらせる。斯様にして校庭の内容の概略を知つて之に親しみを覚えさせ學校に慣れさせると共に學習の基礎訓練とする」。その時に鶏がないから新に飼ふ必要はない。

第二には記念の木を植ゑて入學記念とし、入學の印象を強くすると共に、自分達の學校であり庭であるといふ親しみの心を持たせる、――」

次は「庭の花」、「庭の動物」等があり、四月の終りに一日がかりで春の野に連れ出す。修身書の中の、「よい子」には道を歩く時の訓練、讀方には、空が晴れた、牛が啼くもうさ啼く。びいちく／＼雲雀が上がる。天まで上がるといふ事で何の科目にも關係する。其處までに算數は始まらないが、野に出た事で、お話や繪、歌の材料になる故、凡ての國民學校教材になる。

それでこの「春の野」の所では「校庭で自然から直接に學ぶ態度の訓練を受けた後を受けて一日を費して少し離れ

た野山、河原、濱邊なごへ連れて出る。さうして花束をつくつたり、花や草を玩具にして遊ばせたりしながら自然に對する眼を開かせる。又途中で作物やその他の自然の様子を見て歩き、更に學校の兎や鶏の餌を集めて歸る。

次は「春の種まき」。さういふものはいはない。朝顔や豆の様放つておいてもいゝものを考へる。つまりさういふ程度でゆく、具體的といへばいへるが、實はさうでない、場所によつて違ふから、一年から三年までの觀察で先生が斯ういふ事を教へるといふのは要求してゐない。

菊池 玩具を扱ふさいふのは何の邊に出ますか。

堀 第七の所に木の葉遊びが出て来る。第十の豆の所では、そらまめ、えん豆の事が出てゐる。莢をこつて豆の様子を調べ莢や豆もおもちやをつくる。其の時に左右が釣合つてゐるさか重心がさういふやうな理窟を教へるのでない。

菊池 第六感でその平均の工合を感じるのですが。

堀 いや普通の感覺で。さうして釣合ふかといふ事を普通の感覺で研究させる。何れ上手に出来るのさ出来ないのさある。

坂内 偶然うまくつくるさいふ場合がありますね。

堀 その時は、他のものを拵へさせる、するさ分る。

山村 風車を作つてゐる時、うまく廻る風車が出来ない遊びには入れないといふ時があります。さういふ時には？

堀 何時迄経つても出来ないのを構はないといふのではない。そこが先生の手際を要する處さ、

さうしても工夫、創造しなきゃいかんといはず、手傳つてやるさか或は他の子のを良く見させるさか場合々々でいろいろにする。兎に角子ごもが其處で愉快な生活をして善良な性情を作れば良い。

水野 始めに作つておいてそれを見させるのはいけませんか。

堀 それはいゝ。

かういふのを作れといふに真似する様だが子ごもは部分々は工夫するものだ。かういふ材料でかういふ工合にさいつても、實際に作業させる事に重きを置く。出来上つた結果に重きをおけば教育の精神には合はない。此の通り作つて見なさいといつても出来る子もあり出来ない子もある。出来ても廻らないものもある。其の時、先生が一寸直すさよく廻る様になる、それで良い。凡ての故障を突破させなくてはならんといふのでない。先生の作つたのを持たせて歸すさいふのは單なる土産で遊びに重きをおけばそれを持たせて遊ばせる。同じ風車作りでも幼

稚園の子ごもは出来ないが小學校の兒童は出来、三年生位になるさ何から何まで自分で努力する。その時にそれはまづいからやつてあげませうといふのはいけない。子供の出来る程度を考へねばならない。

この邊のこごを考へて、さういふものが丁度この年齢の子供に適當してゐるかを決めるのが保育經驗家の腕前である。

努力なしで出来るやさしいものは興味がないし又あまり努力が要るものも興味がない。

誰さんが、うまく作つた、自分もしてみようといふ位のが良い。手技でも觀察でも作業に屬する事は多少努力しなくてはならないといふ程度が良い。年少さ年長さ早生れさ遅生れさで大分違ふ、保姆があの子は何うさのみこんでゐるからそれによつてすればよい。(つゞく)

毎日の保育問題 (五)

上 澤 謙 二

九 出ようとして引込んだ子供

『言葉でいふよりは實行で示せ』、『口で命するよりは手で動かせ』とは、保育道の原理のやうにいはれてゐる。まことにさうにちがひない。ところが活きた實際の交渉になると、偶には例外的場合がないではない。

子供達はサークルになつて、先生といつしよに『結んで開いて』手を動かしてゐる。

ただ一人、サークルからぬけて、お母さんのそばにひつついて、みんなのすることを見てゐたKちゃんの上半身が、ほんのわづかながら前へ乗り出してきた。それは特に注意してゐなければ分からぬくらゐの程度である。

けれども注意してゐた先生は——さうしてもお母さんのそばを離れない、みんなの中へはいらないKちゃんを、さ

うかしてはいらせようま注意してゐた先生は、この有様を見逃がさなかつた。

「こんなことは初めて。さうく興味が湧いてきた見える。よい機会、これを逸してはならない」

さつそくそばへ寄つてきて、親しさを表はすため、しやがんで、Kちゃんの顔ま自分の顔を向き合せていふ。

『面白いわねえ、Kちゃん』

さうするま、Kちゃんの頬に、ほんのかすかだが、ほほゑみの影がただよつたやうに見えた。

「好調だ、この氣持に乗じて、今日こそお仲間へ入れよう」

さう思つた先生は、言葉をつづけた。
『ああ、いらつしやい』

「おお、少し腰が浮いたやうに思はれた。」

「もう一息！」

先生は手を出して、Kちゃんの手を取るをひつばつた。

そのまま立上がつて来る——「思ふよ、これはしたり、ただよつたやうに見えたほほゑみは忽ち消え、浮いたやうに思へた腰は忽ちドッカミ落ちついてしまつた。さうして首をちぢめ、手をちぢめ、身體までちぢめてしまつた。」

「まあ、さうした……？」と思ひながらも『いらつしやいね、ほら、みんな待つてゐるわよ』と、猶も手を曳く手應へがある。反對に引込めようとするのだ。

『さあ、いらつしやい。』

見兼ねて、お母さんもうしろから手を添へるをKちゃんは下をむいて無言のまま頭をふつて、身體をうね／＼させた。これ以上やれば涙も出し兼ねまじき形勢である。

それで先生は斷念して引上げる。『結んで開いて』は、又にぎやかにほじまつた。

それをしながら、先生はそれもなくKちゃんに注意してゐるを、お母さんにかじりついて、半身をその袖のかげに埋めるやうにしてしまつた。明かに状態は前より悪くなつたのである。

なぜか？

たしかにKちゃんには、お友達にしてゐることを對し

て、今までになく興味が起つたのである。或は「はいらう」をする欲求も起つたのである。それは先生が見て取つた通りである。けれどそれは極めてかすかなものであつた。未だ意志活動がはじまるまでに到らなかつた。だから強弱多少いづれにせよ、或る接觸又は刺戟に堪へない有様だつた。それを受入れるよりも、寧ろ忌避する状態だつた。だから先生の折角の「手」は、助長するやさしい誘導にならないうで、壓倒する強烈な刺戟になつてしまつたのである。Kちゃんに取つてはその手は「渡りの舟」さもないべき救ひの手でなくて「拉し去らうとする」恐ろしい手に見えたのである。

なぜか？

一言でいへば早きに過ぎたのである。もつと待つて、「はいらう」をする自發的動機がはつきり起つてくるだけの時間を藉せばよかつたのである。ただこの一つ——わづかな一つのために、こんな意外な、期待はづれの、反對現象が導き出されたのである。

「機會を逃がすまい」としたことを「口より手」を進めたことに、いづれもお母さんのやつたことに誤りはないが、「自發的ならしめる」場合には、往々にしてそれが或は早過ぎ、或は行き過ぎになる。殊に内向的な消極的な子供を「自發的ならしめる」場合にさういふことが起るのである。

先生はひきり考へた。

「ピチ／＼育ちつゝある子供の問題だもの、所謂一般的原理で一から十まで規定しきれないところがあるのは當り前だ。寧ろさうでなければふしぎだ。それこそ『活きた保育』の意味も、興味もあるのではないか。

一〇 ひとりて積木を片づけるまで

「Iちやんが立上がつて、バタ／＼きかけ出した。あまには例によつて積木が縦横無盡に散亂してゐる。

「Iちやん、Iちやん」

先生が呼ぶまゝ、Iちやんは立ちまきまつてふりかへつた。

「これ、お片づけしてから表へゆくの」

「ううん、あま」

さういつてかけてゆかうとする。この子のいつものやり口だ。

「ちよつこ、ちよつこ」

先生が聲を高めて呼びかけたので、Iちやんは又立ちまきまつてふりかへつた。

「あまでぢやない、今お片づけするの」

Iちやんは額に八の字を寄せて、だまつてそこへ突立た。しばらくそのまま——。やがて先生の方から近寄つてい

つた。そこでIちやんの手を取つて「さあ、いらつしやい」さいつて、その場へ連れ戻してくるのも、たしかに一つの方法である。

けれども先生はさうしなかつた。相變らず言葉でいつた。

「Iちやん、このあひだ先生はお約束したでせう。積木で遊んだら、あまをきつこお片づけするつて」

Iちやんはやはりだまつて立つてゐる。

『お約束の通りにするね、Iちやん、お片づけできるね』けれどもだまつて立つてゐる。先生もだまつて立つたが、やがて又いふ。

『今日はお片づけするでせう。みんなによくできるか、先生に見せて頂戴』

まだだまつて立つてゐる。

先生は手がムヅ／＼するやうな氣がした。ちよつこ仲ばして相手の手をつかまへて引張つてゆけば、それで一気に問題は解決される。けれども猶も言葉に據つた。ちよつこ間をおいて又いふ。

『Iちやんがお片づけしたら、先生はびつくりするよ。みんなによくお片づけするか知ら』

Iちやんは相變らずだまつてゐたが、顔を擧げて散らばつてゐるまゝを眺めはじめた。それはそこに思が向いて

きたこのしるしではないか。

そこで又『さあ、ゆきませう』と聲をかけて、手を取つてゆきたくなつた。きつと素直に、否進んで連れてゆかれるだらう。

けれども、先生は飽くまで言葉を用ゐた。ちよつと間をおいて又いふ。

『さあ、ゆくかな』

『まあ、えらい』

バチバチと、先生は手をたたきながらそのあとについて、その場へゆく。

この場合、手を取つてすれば、手續きとしては簡明で、結果は靚面に現はれよう。然しそれだけ強制的な調子が加はる。従つてそれだけ自發的な色彩が減ずる。

より純粹な自發的動機乃至行爲を相手に創り出し導き出さうとする時は、手よりは寧ろ口である。身體に觸れて動かすよりは、心に訴へて考へさせることである。前者に他律的要素が多いのに比して、後者は自律的要素がまさつてゐるからである。

先生が一言葉々々をわざと間をおいていつたのはこのため——相手におのづから考へる時間と餘裕とを與へるためである。言葉をつゞけてたゞみかけていへば、何となく叱

るか責めるやうなふうになつて、服従か反撥か、どちらかを生ぜしめるほかない危険におちいる。それを避けて、出来るだけ純粹に近い自發的狀態を齎らすためであつた。

「I ちゃんはまだつて片づけはじめた。けれどもそれはもういや／＼な反抗的なだんまりではない、當面のことに、心を打込んだ忘我的なだんまりである。活潑に正確にうごくその手を見よ。散らばつたものは／＼なくなつてゆく。」

自發的にされたればこそ——言葉によつて導いてゆかれればこそ、こんな活潑に正確に行はれるのだらう。

手によつて連れてゆかれたならば、同じく片づけるにしても、こんなに活潑に正確には行はれなかつたらう。

『言葉でいふよりは實行で示せ』

『口で命ずるよりは手で動かせ』

こは、保育道の原理のやうにいはいはれてゐる。まことにさうにちがひない。ところが活きた實際の交渉になるに、偶には例外の場合がないではない。

三月の保育

及川ふみ

三月は幼稚園として、最も面白い、充實した時期である。年長組は勿論のこと、年少組もすっかり幼稚園の生活になれて、一日々々が實に愉快さうである。

月の半ばもすぎれば、時々には暖かい日もあつて庭遊びも心よく出来る。幼稚園のお名残りに、お部屋の内でも、お庭でも充分に遊ばせたいものである。

月末にある保育終了式の準備の爲に、時々記念の寫眞——入園當初の頃、遠足の日、運動會、或は園舎、園庭、保育室、先生方などの寫眞を思ひ出草として一綴の寫眞帖におさめて、保育終了の日に、お餞別として各幼児に頒つのも一つのよい思ひつきである。又自由畫、切り紙などの幼児の作品の綴りもよい記念品となる。

保育終了式は小學校の卒業式のように形式は整然とは出来ないが、楽しい、うれしい最後の集りとして、保護者も招いて、幼児が日頃覺えた、唱歌や遊戯、お話などをみんなの幼児が

交る／＼にして、あまで簡單な茶菓の會を續けてなごやかなお別れをしたい。

第一週 三月一日

土

明治神宮遙拜式

お雛まつりの支度

幼児に手傳はせてお雛雜を飾る

第二週 三月三日——三月八日

月

雛まつり

雑段の前に全園の幼児が集つて雛まつり

唱歌、遊戯、お話、人形芝居など組全體であつたり、或は數人、或は一人など組合せをこり／＼にして誰もが何かする様にする。後でこの席で各自持參のお辨當を開き、幼稚園よりのお菓子のお食後で會をおしまひにする。

火

自由畫

おひな様の前で、かざられたお雛様の寫生

紙仕事

桃の花のきり紙

水

お話 地久節 皇后陛下のお話

唱歌遊戯 春(フレーザー賞)

木

皇后陛下御誕辰祝賀式

金

唱歌遊戯 春(フレーザー賞)

粘土 自由製作

土

お話

自由畫

第三週 三月十日——十五日

月

お話 陸軍記念日

ヌリエ 勳章作り

火

唱歌遊戯 たんぼ

紙仕事 自由材料

水

觀察 木の芽、草の芽

三月も半近くなるに暖い日もある。庭の木々もそれなく、小さい芽を出し始める。バラの芽、プラタナの芽、柳の芽、チューリップの芽、ナツナなご探ね歩くいろいろのものが見つけ出される。保育室のお話よりも、幼児たちに幼稚園の木の芽、草の芽を探させて見る事にする。しのびよる春の様子を語りずして、幼児たちに觀察させたい。自由畫 今見てきた木々の芽を自由畫にかゝせておく。芽の形、色なきもそれなくちがつてゐる。

木

お話 チューリップの芽

紙粘土製作 自由材料

金

唱歌遊戯 たんぼ

自由畫 年少組の記念に各児が一組の人数だけの數をか

く(幾回にもわけて)

土

紙仕事 自由材料

第四週 三月十七日——二十二日

月

唱歌遊戯 春がきた

自由畫

火

お話

紙粘土の色ヌリ

唱歌遊戯 春がきた

紙粘土の色ヌリ

木

保育終了式の練習

金

春季皇靈祭

土

保育終了式

いふしぎあそび………清水光子

観察あそびはいふに足りない、まして近頃やかましく言はれてゐる科擧する心を養ふあそびなきはさても言へないものですが、私が小さい時何だか不思議で外のおそびもちがつた面白さを思ひ出し乍ら、幼稚園でしたまゝを二つ三つ書いて見ました。先日の座談會の時にもこんなお話が出ましたがその時、堀先生は観察について教へるなご力説されました。この遊びも決してなぜ斯うなるかを説明はしません、ほんさうに面白いねと言つてやつてみて遊ぶので、不思議はそのまゝ残して置きます。私も一緒に不思議なのですから。

一 磁石

お姉さんが小學校へ行つてゐる○さんが或日馬蹄形の磁石を持つて來て砂場の中をかきまはして「テツガトレルヨ」

と言つて面白がつてゐました。翌日は急に四五人が大小の磁石をもつて來ました。流行にならないやうにさいふこも手傳つてその日は組の誰もがお友達のを借りてやつてみるこににしてする分面白く遊びました。砂場の砂から砂鐵をさるこに、それを紙の上に集めて下から磁石でおぎらせるこに、磁石の上に紙をのせそこへ砂鐵を撒いて磁石の形を出してみるこに。私の色々なものゝ入つてゐる筆箱の中からくつつくものをさがし出すこに、道具箱の古釘を幾本もくさりのやうにつけつこするこに。なきをして遊びました。

二 レンズあそび

太陽おひさまとお月おつき様さまいふ繪本にレンズで黒い紙をもやすこにかいてあるのをみた子こもがさつそくやつて見度みどい

ふ。私に小さい蟲眼鏡があるので、これはその繪本にもかいてあつたやうに少々あぶないので私がやつてみせました。墨で簡単な線畫をかいておいて煙が出て黒い所がもえぬけてゆくのをしてみました。又この時炭の灰をませた墨でかきますと一度火がつくは獨りでもえてゆきますから二重に面白いものです。「先生のおうちのお祖母さまはこんなので大きいのをもつていらつしやるの、新聞をみる時それで斯うしてみるのよ」話して乍らレンズで大きく見えることをみせましたら、私も僕もお互に手をみ合せつたり（まるで占のやう）なき大喜びでした。

三 鏡

お午一寸前、白い壁にまるく、うすくユラ／＼ゆれてゐる日影をみつけた一人が「あれ、おぼけ」言ひました。あら何でせうと言ひ乍ら流しのそばへ立つて行く光る影は消えます、お盆を拭く爲のバケツの上に手をかざすとおぼけが少し曇ります。あゝこれだつたのね、さいふこまになつて手をやつてみたりバケツをゆすつてみて影を散らしてみたり、何でもないことですが面白いのをみました。それで私は小さな懐中鏡をもち出したわけです。それで小さな日影をあちこちうごかしてみせました。あら、おぼけどこへ行つたのと言ふ一寸鏡を動かすと戻つて來ます、横向いて何かしてゐた〇ちやんは、ふいに光に當つて驚いて

こちらを向き、向いた途端まぶしいので大あわて、正體がわかつて僕にさせてさいふのでいろ／＼にして誰彼に光の箭を向けてゐました。

四 あぶり出しさうかし繪

外に出られない日の火の戀しい頃、あぶり出しをしてみました。小さい頃のこまを思ひ出してはじめはろうそくで書いて代るがはる職員室の火鉢であぶるのです。大へんな人氣をよんで廊下でしやがみ鬼をしてゐた子さも、かくれんぼをしてゐる子さも、みなやらして、言つてほご紙の裏に思ひ／＼の繪や字をかいてあぶつてゐます。それで、ふき明礬の粉があつたのを思ひ出して少しさいいて筆で書いてかはかしてあぶりました。これははつきりさこげめがつくのでこれの方に轉向する子さもが多くなりました。あぶり出しはみかんや橙や玉ねぎの汁が昔からよく使はれます。稀硫酸なき使つてするまでもないでせう。面白くあそびます。今度は汁を使つてする約束で、みんなこつそりかいて子さも同志交換してあぶるさいふこまにしてをります。うかし繪はろうを揮發油で書いて、筆でかくのですから少し今時困りますが、水にうかして繪を出すのはあぶるのこま又ちがつた面白味があると思ひます。

五 手品

毎保育期の終りに子さも達の唱歌や遊戲やお話の集りを

する習慣になつてゐますがその時先生は取つて置きの手品を二つ三つ致します。何のこまはないので御存じの方も多いでありますが。

イ、ひも切り

長いひもと同じ五寸位の紐を用意して短い方は片手にまゐめてわからぬ様にもつてゐます。長い方を出して「このひもはぎこも切れてゐませんね。これを半分に折つてぎなたかに切つていただきます。それを上手に元通りつなぎます」短の方と云つて短い方×短の方、長い方と云つて長い方×長い方、上圖の○印の部分を上手に握つて子ぎものひしりに×印を切つてもらひ、全部を手の中であらめて長い方の端を靜に引き出してつながつた事を表はすのです。

成る可く黒つばい風呂敷を用意し、やはり黒つばい小さな袋を作つておき、その中へ出さうと思ふおもちやなり、お菓子なり(大ていキャラメルにいたしました)を入れておきます。その袋を見えない様に机の手前にそつまつるしておきます。風呂敷を改めて机の上にひろげ、順に四すみを手にもち、一番手前のをさる時袋も一しよにさり、それが中に入る様に風呂敷を引上げます。そして段々重く、いゝ物が入つて来たやうだなぎ、言ひ乍ら中へ手を入れて少しづつ出すのです。みんなに分けられるやうな物を入れてお

くま面白さが倍加します。ハ、空徳利から水を出す

前に本誌に堀先生がおかきになりました。白い徳利に水を入れ口を紙ではつておきます。この中には何も入つてゐない事をさかさまにしてためします。そしてその上に白いハンカチをのせ、呪文をさなへ乍ら靜にハンカチを引き、口の紙も一しよにのける様にします。そしてコップに水を注いでみせるのです。

ニ、水の色を變らせる

これは少々準備がいりますが、私は化學室から極少しかけていたぐくのが常です。フェノールフタレンをコップの壁がうるほふ程度につけておき一方のコップには何かうすいアルカリ性の液を水のやうに見せて入れて置きます。「こまにある水をこちらのコップに移すこ何うなるかみてゐてごらんさいね。こちらには何にも入つてゐないのよ」と言ひ乍ら色のかはる事を見せるのです。

ホ、水のおちない瓶

コップか廣口瓶にみんなの見てゐる前で水を一ぱい入れます。そしてその口をびつたり葉書でおさへ、コップごみ倒にして靜におさへてゐる手をはなして水が落ちないこまをみせます。

各地保育
會の活動

三重縣中部保育會の活動狀況

三重縣中部保育會會長
三重縣津市立新町幼稚園長

鈴 木 武 治

〔一〕 千古緑の色濃き神路山の麓に鎮りまします皇大神宮の所在地たる、我が聖地三重の地には、誇るべき種々のものを他にも持ち合はせてゐます。たゞ幼稚園の保育についての研究さか向上さかに對する従來の施設は、他府縣のそれに比して、如何かと思はれる節が多いのであります。尤も近時農繁託兒所の開設の漸く多きを加ふるにつれて、幼兒の保育さいふ點について、相當施設・研究せられる様になりはしましたが。

我が三重縣中部保育會にしたところで、創立こそ昭和五年八月ではあれ、皆様にその活動の狀況を麗々しく吹聴申上げる程の強心臓は持つてゐませぬ。しかし今後益々發展させたい熱意を、己を空ふして聞かんとするの眞摯さを持つてゐる私共が、その辿つて來た概略を述べて、皆様方の御參考に供するを得ば、之に過ぎる幸は無いと筆を執つたわけです。

〔二〕 動けき、愛すれき、悶へきも、毎日保育してゐるも

の、身になつて見るに、其處に空虚な、やる瀬ない、不安な焦燥があります。毎日の保育するに、それが果して、これでよいのか、より良い方法は無いのか？ さうすれば満ち足つた保姆としての責務を果すことが出来るやら？

かうした境地——求道者の心持——が、極めて自然的に、私共の三重縣中部保育會を育て上げました。丁度昭和五年の八月、發會を致しました。當時の會長は本庄光治郎氏で、津市内に隣接二ヶ町の幼稚園で九園でした。爾來會員は二十數名ですが、それこそ本當に、心こころのなつがり、「自分達の會」さいふ心持ちで茲に十有餘二年を續けて参りました。私は乏しきを會長の職に當り茲に數年、唯々會員の熱意に動かされて、その日々を會のために盡してゐる様な次第であります。

三重縣中部保育會々則

第一條 本會ハ三重縣中部保育會ト稱ス

第二條 本會ハ保育關係者相互ノ連絡ヲ保チ、保育上ノ研

突改善進歩ヲ期シ併セテ會員ノ親睦ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ津市並ニ其ノ附近ノ公私立幼稚園及ビ保育團體職員ヲ以テ組織ス

第四條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、會員總會(毎年四月) 一、保育上ノ研究及ビ打合

一、保育ノ實際ノ視察 一、保育ニ關スル講習會

一、會員相互ノ親睦 一、其ノ他

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、會長 一名 二、副會長 一名

三、理事 若干名

會長ハ本會ヲ代表シテ會務ヲ總理シ、副會長ハ會長ヲ輔

佐シ會長事故アル時ハ之ヲ代理ス。理事ハ會長、副會長

ノ指揮ヲ受ケテ會務ヲ處理ス

第六條 本會役員ノ任期ハ之ヲ二箇年トシ會長ハ會員總會

ニ於テ會員中ヨリ互選スルモノトス。但シ場合ニヨリテ

ハ本會顧問中ヨリ推薦スル事ヲ得 副會長及ビ理事ハテ

員中ヨリ會長之ヲ選任ス

第七條 本會ニ顧問ヲ置ク 顧問ハ本會關係保育團體長會

推薦ス、顧問ハ會長ノ諮問ニ應ズ

第八條 本會經費ハ左記ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス 而シテ

會計年度ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一、會費 會員ハ年額金壹圓五拾錢ヲ納入スルモノトス
二、其ノ他ノ收入金

第九條 本會ノ事務所ハ會長所屬ノ團體事務所内ニ置ク
第十條 會則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非レバ改

正スルコトヲ得ズ。

これが私共の會の規約なのです。一見何れの會と何のかはりもありません。事業の實際を書いて、その内容を明らかにしたいと思ひます。

(三) 先づ修養研究の方面で第一に述べたいのは保育の講習會であります。會員數も僅か二十數名といふ現在の組織では、なか／＼大きな講習は望めませぬ。しかし講師の先生方も本會の内容を御理解下さつて、毎年一回の講習會には、斯界の權威を聘して、保育の大講習會を開き、本會々員は申すまでもなきこと、縣下保育關係職員、近府縣の方まで御参加願つて、每會百數十名の受講者があります。東京女子高等師範學校の倉橋先生、及川先生、小島先生、には數回に亙つて御來講を辱ふしました。その他奈良女子高等師範學校の森川先生、小林尉代先生、關惠美先生にも毎々御厄介をおかけし、恩賜財團愛育會の講師山下俊郎先生にも昨夏は御來講を戴きました。茲兩三年前からは、縣の社會事業協會、縣兒童保護協會、縣教育課、津市社會課、津市教育會から相當多額の補助を與へられる事になり苦し

い講習會の經理も大分樂にはなりました。しかし受講者本位から聴講料の極端な低減を圖るため、主催者である中部保育會の會員は、受附接待は云ふまでなく、小使傭人の仕事まで、一切人手を借らずに、會員でやる事としてゐます。かうした會員の熱誠にほだされて、毎回来講される講師先生も、親身になつて御指導戴けますので、縣内唯一の保育の講習會として、おしもおされもしない存在になりました。

前述のものは毎年夏期に催す大講習會であります、その他に一年に一回か二回、ほんの小規模の會員のみが受講生となる實技の講習會を開きます。京都の竹川先生、縣師範の服部先生なごを招いて、粘土細工、切紙細工なごの講習を最近やつて戴きました。

〔四〕 視察見學は知見を擴め、啓發せられる所が多大な爲、つめて之を行つてゐます。毎年一回京都、名古屋、大阪、奈良方面の保育の實況を會員全部が出てゐます。これには全會員を前後の二班に分けて、半數交替で實施してゐます。會の方からは實費に近い經費の支出をします。その結果は毎月一回の集會に必ず發表しあつて切磋の資になります。随分これは有効に存じてゐます。

尙また會員が春秋二回打揃つて、近郊のハイキングに出かけます。桃咲く丘の上でのさんざめき、紅染める樹々の

下での語らひなご、子供心に歸つて、一日を愉快に暮し、會員の親睦を圖つてゐます。

こんな譯ですから私共の會は、本當に皆が自分達の會、自分のための會といふ考へが常に會員各自の腦裡に深く刻まれてゐますので、我ながら不思議な位總てがスムーズに運んで参ります。

以上は主として會員の内を深めるための諸施設でありませんが、更に外部に對しての働きかけ、資金の獲得なきについての狀況を書いて見ませう。

〔五〕 保育の實績を擧げるには、お母様方の協力を必須の條件とします。私共の會では、機會ある毎に、母性の教養の向上といふ點について、積極的に力めてゐます。毎年一回か二回園兒の母姊を中心として、一般女性の参加を願つて、幼兒教養保育の講習會を開いてゐます。最近には大阪ランパス女學院高森富士子教授の「幼兒教育」、東京阿佐ヶ谷幼稚園高崎能樹園長の「眞人間の教育」、三田谷兒童院長三田谷啓博士の「我が子の教育」なごの講演會をはじめ、有名な中山龜太郎先生の「母性愛を語る」の講演會を開きましたが、毎回非常な盛會で、好評を博してゐます。

かうした催をするについても、前掲の視察や講習會をするに就いても、相當の經費を要し、それは會則にある會員の醸出額は、到底不足を告げるので、活動の資金を得るた

めに、之まで會員の各自が努力した事を述べることをします。勿論現在では非常事務局下でありますので、かうした方法も改むべき點が多いのであります。以前のものを書きます。先づ第一は會員の勤勞によつて、人形——縫ひぐるみ細工——の製作をバザアに出品して、その利益金を得るこゝです。第二は社會教育を目的とした演劇の前賣券を發賣して、それによつて利益を得るので、一燈園のすわらじ劇團の來演を機に二回、又映畫館との契約による映畫觀覽券の前賣で利を得た事もあります。第三は毎年四月八日の「花祭り」の當日、津市内目貫の箇所、會員が菓子包の立賣りを行つて資金を集めます。かくして得た金額は相當多額になり、その幾分は恤兵獻金をいたしたり、陸軍病院に白衣の勇士の慰問費に充當しました。こんな譯で活動部面が社會的に知られて來るにつれて、幼児保育の大切な事なきが一般家庭に相當認識せられ、保育會の仕事に對する理解が相まつて、好結果をもたらすつゝあります。幼稚園児の製作にかゝるお人形やアルバムを持參して〇〇陸軍病院に白衣の勇士を慰問した時や、前述の事業に依る利益金の内で、會員各自が子供に與へる様な玩具類を夫々買調へて、ギツシリ重たい風呂敷包みを携へて、〇〇療養所を慰問した時なき、兵隊さんは眞心から喜んで下さつた事であります。

しかし今日では、かうした方法で資金を集める事も、相

當考慮しなければならぬので、更に新しい構想の許に、或は會員の廢品回收、利用更生の研究等によつて、或は勤勞實踐に依つて、活動の資金を獲る方法等を考へてゐる次第であります。

〔六〕 前述で略々私共の會の概況を盡くしました。

今後は如何なる方向に努力すべきか、如何なる態度で結ばれて行くかといふ事は、新體制下の私共として、しつかり考へねばならぬ問題であります。小學校が國民學校に變はり、その目ざすところが皇國民の鍊成にある時、我が幼稚園の保育も、根本的に反省すべき部分がありはしないでせうか。更に近時躍進的な發展を遂げつゝある託兒所の保育との協調提携といふ事も、眞剣に考へなければならぬ問題であらうと思ひます。私共の保育會に於ても、本年度の研究題目は、「國民學校と幼稚園の保育」といふ事がある一であり、「強き子供」をいふ事がその二であり、「託兒所保育と幼稚園」がその三であります。

〔七〕 以上は私共の會のさ々やかな歩みの概況であります。縣全體としては三重縣保育會といふのが誕生して、諸種の事業を計劃せられてゐますが、現在までには、保育の協議會を各地に於て開催せられてゐるに過ぎませぬ。しかし近き將來に於て此の縣保育會が、あらゆる縣内の保育關係團體を吸收強化せられる事と思ひます。この時こそは私共の保育會も欣然これに参加し、いや高き發展に努めたいと念願してゐる次第であります。(昭和十六・二・四日稿)

佳作 みくづく

眞木喜久子

えみちやんは今年七つで、町の幼稚園に行つて、をりました。えみちやんのお家はお花屋さんで、お店には、きれいなお花や珍しいお花がいつもたくさんありました。お父様は方々のお家へお花の配達に行つたりして居ました。

えみちやんのお家では、お姉さんさえみちやんさつた二人きりなので、お父様もお母様も大變二人を可愛がつてをりました。

寒い冬がだんく近づいて來た日の事でした。えみちやんのお父さんは女學校からお花をたのまれて持つて行きました。女學校ではあした展覽會があるので、生徒はみんな一生懸命でお花を活けてをります。えみちやんのお父さんもお水を汲んで來ては活けたお花に入れたり、忙がしくお手傳ひをしてをりました。

だんくお日様もお山に沈みかけ夕方近くなりました。それでも未だすつかり出來上りませぬ。先生も生徒もパチンパチンとお花を切つてはさし一生懸命です。

バサバサこの時らう下のガラス戸に何か大きな鳥の様なものが羽根を打つて止りました。えみちやんのお父さんはびっくりしてガラス戸の所へ行つてよく見るミ、それはみくづくといふ鳥でした。お父さんは早速お花を包んで來た大きなふろしきを持つて、腰掛けの上の上

りました。靜かに手をのばしてふろしきでつかんでしまひました。又羽根がバサ／＼／＼しました。でもさう／＼みづくはふろしきの中に入れてしまひました。

お父さんは早くお家へ歸つてえみちやん達に見せ様と思つて、大急ぎでお花を片付けて歸りました。

「えみちやん／＼早くおほきな目籠をかりておいで」お父さんはお店に這入る／＼大きな聲でえみちやんを呼びました。

「お父ちゃんなあに、なにをするの」お店に来て見る／＼お父さんはふろしきを大事そうにさげて居ます。えみちやんは何だかわからないがお臺所にかけて行つて大きな目かごをもらつて來ました。お姉さんもお店の方が何だかにぎやかなので出ていらつ／＼やいました。

「お姉ちゃん、火鉢の脇へ新聞紙を二枚重ねて敷いて頂戴」お父さんが大變忙がし／＼なのでお姉さんも急いで新／＼紙をしきました。

「さあ／＼面白いものが出てくるよ」／＼こう言つてふろしきからさうつ／＼みづくを出して新聞紙の上におき、すぐ目かごをかぶせました。驚ろいたみづくはかごの中でバタ／＼始めました。えみちやんもお姉さんもびつくりしました。少しする／＼みづくもちつ／＼靜まつてしまひました。

「お父ちゃんこれなあに？」

「之はねホラ、いつか繪本で見たでせう、夜になる／＼ホッホッてなく／＼ふくろうのこゝこをね。あのふくろう／＼同じ様な鳥でみづくつていふんだよ。晝間は目が見えなくて、夜になる／＼よく目が見える様になる鳥なんだよ。お父さんは女學校のお廊下に迷つてはいつて來たみづくにつて、二人にいろ／＼聞かせてくれました。

「それからね。みづくはさげうの様なものが好きなんだよ。お／＼なりへ行つてさげうをかつて來てやらうね」お父さんは井をもつて、お隣の魚屋さんへ行き、さげうを買つて來てか

ごの中に入れてやりました。

お母さんが夕飯の仕度が出来たので、

「さあみなさん。ご飯に致しませうね」とおつしやいました。えみちやん達はみづくさんがごせうを食べるところが見たかつたので、いつまでも籠のそばをはなれませんでした。

「きつこみんながご飯を戴いてゐる中にみづくさんも、食べるでせうからね。さあ早くおがり」お母さんが又こうおつしやいますので、えみちやん達も仕方なくそこを離れました。

暖い夕飯が始まりました。

「えみちやんのお友達にもみづくさんを見せてあげようね」お父さんがこうおつしやつてあしたはみづくを幼稚園に持つてゆくことにきめました。

夕飯がすんで、みづくさんを見たらやつぱりごせうを食べないでキヨロノして居ます。

えみちやんはがっかりしてまひました。

でも私が眠つてしまつたころ、きつこ食べるかも知れないわ。そう考へながらえみちやんはおねんねしました。

明日の朝になりました。今日は随分寒い。でもえみちやんはいつもより早くおしたくして幼稚園に行きました。お父様は自轉車でみづくを幼稚園に持つて來ました。

此の間まで小鳥のおつた小舎を借りてみづくを入れました。みづくはすぐさま木にござまりました。男の子も女の子も大ぜいよつて來て、「なあに?」「何に?」「大にぎやかです。

みんながみづくの前に集つて來たので、先生が「これなんだか知つてゐます?」「みんなの顔をごらんになりました。」「ふくろう」しつてゐる子が一人をりました。きつこ御本で見て知つてゐたんでせうね。知らない子達は不思議そうな顔をしてみづくを見てをります。

「先生、みづくはひるま目が見えないのね」

えみちやんがいひました。

「ほんこ？先生誰かと言ひました。

「そう。みづくやふくろうはね、晝間はよく見えないのよ。そして夜お月様が出るさ、ふくろうやみづくさんはね、よく見える様になるの。だから、晝間は大きな木の穴の中で寝て、夜になるさ出て来るの。大きな目でキョロ／＼みて、ホッホッつて鳴くのよ」子供達は先生のお顔さ、みづくさんの方を一生懸命見てをります。

「あ！先生あの井の中のなあに？」さつきえみちちゃんのお父様もつて来て下さつたさつきを
見つけてきました。

「これね、さつきよ。みづくさんの大好きなさつきよ。それからね、お肉や、蛙なんかも食べるのよみんながあまり熱心にきいてるので先生は又お話しして下さいました。

「このみづくさんね、ふくろうと同じ様だけさ、頭の所にお耳の様なのが少し出てるでせう。ホラね。それでね、みづくつていふの。ふくろうは頭にこんなお耳の様なものなんかないのよ。頭が丸いのよ。

みづくさんは、こんなに可愛い、みんなが見てるのよくわからないでせうね。なんだか自分のお家さばかりがふ所へ来た様だな、ギャ／＼して賑やかな所だな、なんて思つてるでせうね。今日はこんなにお日様が出てるて明るいからよくお目々が見えないの」

「おもしろいね」さつきから感心して見て居た男の子が、金網に顔をくつつける様にして見てゐます。

「みんながよく見られる様に明日までここに置きませうね」先生はブランコの方へ行つてしまひました。さつきの男の子が金網をドンドン叩いてみたり、「シッーシッー」さ追つてみたりしました。みづくさんは驚ろいて頭をうごかします。いつまでもく見てゐました。

あしたの朝になりました、えみちちゃんやお友達は幼稚園に来て、第一にみづくの所に來てみました、先生も昨夜さうしたらうさ思つて來てみました、みづくさんは昨日と同じよう

にさまり木に止つて居りました。さぜうは井からさび出して井の水は氷になつてました。

よくみるさみづくの鼻の先が何かにひつかけたのか血が出てます。

「先生鼻の所に血が出てるよ」早くも見つけてさわぎました。

「昨夜きつこ森の中だと思つて飛び廻つたら、お家がせまいのでさまり木にでもぶつかつたんでせうね。可愛想に、今日は先生が歸る時さばしてやりませうね」「おしいなあ！先生「みんながつまらなそうな顔をしています。

「先生みんな見てしまつたら、飛ばしておやりつて、お父ちゃんも言つたの」えみちゃんがかう言つたので、さう／＼夕方飛ばしてやることにきまりました。その日の夕方町に電燈がつく頃、みづくさんをにがしてやりました。

二日も變つたお家に入れられて何だか元氣がない様にしてるだが喜んで裏の山の方へ飛んでいつてしまひました。今頃はきつこお家で楽しく遊んでるでせうね。

佳作 子供は風の子

荒井 志乃

「お姉さん、風の子つて言ふのは、誰の子なの。」

さ聞いたのは、今年八つになる、目のクッキリした、顔のボタボタした健ちやんさいふ子であります。

今、健ちやんから風の子つて言ふのは、誰の子だつて、さ聞かれたのは、健ちやんのお姉さんでした。お姉さんは、

「風の子と言ふのはネ。冬の寒い寒い風が吹いてゐる日でも、外に出て、凧あげしたり、戦争ごっこしたり、球なげをして威勢よく遊ぶ元氣な子を風の子といふんですよ。」

ミ、健ちゃんに教へました。

するさ、健ちゃんは、嬉しさに體をもじもじしてゐましたが、

「それぢや、ボクは、風の子ネ、ネエ、お姉さん！ ボクは、お母さんが、御飯だからお歸りつて、お迎へに来て下さるまで、外で遊んでゐませう。

凧を上げてサ……

お姉さん！ 凧が木にひつかゝつたら、長い竿で取つてネ。」

ミ、健ちゃんのお話は、凧が木に引つかゝつて、破れて泣きかけた時のことを、思ひ出して、くやしさに話しましたから、

お姉さんは、

「そつお、そつお、こないだ健ちゃんは、凧を木にさられて困つてゐたネ。健ちゃんが泣くかなと思つて見てゐたけ泣かなかつたネ、えらかつたよ。」

ミほめましたから、ほめられた健ちゃんは、「だつてエ、ボクは風の子だもの、泣くものか……それでもネ、……隆ちゃんミ、球なげた時ネ、ボクが投げた球が……お隣の庭に入つて往つたの……」

其の時。大きな聲で、だれだア……つて言なられた時は、恐かつたよ。」

ミ、健ちゃんが、少し首をひつこめて、こわさうな顔をして話すのを、きいてゐたお姉さんは、面白がつて、

「其の球はさうなつたの。」

ミ、健ちゃんに聞きましたから、

健ちゃんは、

「隆ちやんミ、二人が駈けて逃げてネ、大きな木の陰にかくれてゐたの……さうしたらネ、向ふから、こちらに投げて下さつたの。隆ちやんミ、二人で、ソウミ歩いて、球を取りにいづたらネ、……お隣のお姉さんが、二階から笑つて見てゐたヨ。……笑つてゐたけき、こわかつたよ……。」

お姉さん、九ちやんはネ。……いつでも炬燵にばかり入つてゐて、外に遊びに出て来ないヨ。ボクが。爪をあげないかつて、お誘ひに往くミネ、耳が冷たいや……。」

戦争ごつこしないかつて、お誘ひ往くミネ。九ちやんのをばさんが、「いけいけ」ミ言つても、九ちやんは、戦争ごつこよりか、炬燵の方がいゝやつて……だんだん、炬燵の中にもぐつてしまふよ……變だネ、九ちやんなんか、風の子ぢやあないや、炬燵の子だネ……。」

お姉さん、猫は、炬燵が好きだつたネ……。」

ミ、又、健ちやんのお話が違つた方に向けられてまゐります。お姉さんは、

「猫は、コタツでまるくなる……こいふ歌がありますよ。猫は、炬燵が大好きサ。」

其話を聞きますミ、健ちやんは

「お姉さん、ぢやあ、九ちやんは炬燵の子ネ、猫ミ仲よしだ。をかしいや……。」

こいひおいて、外に飛んで出ました。出るミすぐ健ちやんは、大きな聲で、

「お姉さん、變なものがネ、裏の屋根の瓦から下がつてゐますヨ、白い棒がサ、早くいらつしやい。ボク、ちよつこさはつて見たら冷めたかつたヨ。お姉さん、早くヨ。」

ミ呼ばれたお姉さんは、ニコくしながら、

「變なものが、屋根から下がつてゐるつて、おばけか……蛇か……たこ坊主か……それミも兎か熊か……象か……エツミツツか。」

ミ、からかはれますミ、健ちんは、

「ちがふヨ、そんなものぢやないよ。早く来てね。」

「ミ、ぐんぐんお姉さんをお家の裏に引つばつていきました。お姉さんは、

「これかあ……なあんだ。氷柱ぢやないの、昨夜は寒かつたからね、氷柱が出来たんですよ……。健ちやんは、暖かいあちらの國にゐるたから、見たこゝろがないのだね。……これは、水が凍つて出来たのサ。寒いお國にはこゝでも出来ませうヨ。」

「フーン、そんなら、氷おんなじだね……。」

「さうですとも、氷の棒サ。」

「取つてヨウ、ネエ、お姉さん、ボク、九ちやんのお土産にするからサ。」

「健ちやん、およしなさい。あの寒がりやの九ちやんは炬燵の子だから、氷柱なんか持つて往つたら、驚いて逃げるよ。」

「ミ申しまして。」

「お姉さん、取つてヨ……。」

「それぢや、一本ね……。」

「ウウン、もつこ……。」

「それなら二本ね……。」

「ウウン、三本……。」

「健ちやんからねだられたお姉さんは、

「よつし、三本なの……。ソレ一本、二本、三本……。健ちやん！さうして九ちやんの家まで持つて往くの。」

「繩でしばつて引つ張つて往くの。」

「健ちやんが、ゾロゾロ氷柱の束をお隣の九ちやんのお家まで引つ張つて往つて、

「九ちやん、面白いものを持つて來たヨ、君、一緒に賣りに往かない？」

「さ呼びかけますミ、九ちやんは、もぐり込んでゐた炬燵から抜け出して來て、健ちやんの持

つてゐる氷柱を見るなり、

「ウワア、……氷柱か、……寒いやあ。」

ミ、又、炬燵に入りかけましたから、健ちゃんが、

「九ちゃん、氷柱は寒くないヨ。さはるご冷たいだけだよ、ネエ、九ちゃん、氷柱賣りにいかない？面白いいよ、ネエ、九ちゃん、氷柱賣りにいかない？」

ミ、面白い面白いさすゝめましたから、寒がりやの九ちゃんも、

「ウン、氷柱賣りに往くよ。待つて、ネ。」

ミ、お部屋に駆けこんで、ぶくぶくした厚い襟巻をして出て来ました。その九ちゃんを見た健ちゃんは、

「九ちゃん、よせよ、氷柱賣りが、厚い襟巻なんかするミ笑はれるよ。子供は風の子サ。」

ミ笑ひましたので、笑はれた九ちゃんは、その厚い襟巻をいきなりなげ捨てゝ、健ちゃんの持つてゐる氷柱の繩を持ちました。

健ちゃんは、長い棒を、氷柱をしばつてある繩に通して、片方を擔ぎ上げましたから、九ちゃんも片方を擔ぎ上げました。それから二人して、町の中を、

氷柱や氷柱、

氷柱や氷柱、

ミ、賣り廻つて、しまひに幼稚園の先生のお家にまゐりました。

「先生、氷柱を買つて頂戴。」

ミ、威勢よく大きな聲で呼びました。

先生は、出ていらつしやいました。そして、健ちゃんミ、九ちゃんミが、氷柱を擔いで來てゐるのを見て、びつくりなさいましたが、あの寒がりやの九ちゃんが、襟巻もしないで、氷柱を擔いでゐるのを見て、

「オヤ、オヤ、九ちゃんの元氣な事は……」

「ほめられますよ、九ちゃんは、」

「先生、子供は風の子ですつて、健ちゃんと言つたから僕も風の子になつたんです。……先生、氷柱買ってね……」

「、幼稚園の先生にお願ひいたしますよ、」

「ハイ、ハイ、買ひませうよ、幾らですか……赤いお金上げませうか、白いお金上げませうか……」

「聞かれました。二人は、」

「先生、赤いのを頂戴ね。……」

「ご返事しましたから、先生は、笑ひながら、赤いお金二つを渡して下さいました。」

「健ちゃんも、九ちゃんも、赤いお金一つ宛いたゞいて喜びました。それから、先生が、」

「此の氷柱をござうませうネエ。……」

「ご申されますよ、健ちゃんが、」

「先生、おみおつけにするよ、おいしいでせう。」

「ご申しましたが、九ちゃんは、」

「先生、氷柱はかたいからお漬物にするよいゝでせう。」

「ご申しました。先生はカラ／＼笑ひながら、」

「まあ、あなた方は、お商賣がお上手ね……。氷柱のおみおつけ……氷柱のお漬物……おいしいでせうね。」

「ごおつしつて、又カラ／＼ごお笑ひになりましたから、健ちゃんも九ちゃんも笑ひました。」

それから、道々、相談をして、氷柱を賣つて戴いたお金を兵隊さんに獻金させようきめて、町のお宮の前まで来た時、兵隊さんが、向ふからいらつしやいました。二人は、いきなり

駈けていつて、

「兵隊さん、……このお金はネ、僕たちが氷柱を賣つたお金ですから、獻金いたします。」

ミ、さし出しました。兵隊さんは、何だか分らなかつたが、手を出して受け取りました。兵隊さんに、お金を渡した健ちゃんミ九ちゃんミは、急いで駈けて、あつちへ逃げました。

兵隊さんは、駈けていく二人の子供達を見送つて、

「此の寒いのに、足袋もはかないで、襟巻もしないで、氷柱賣りをしたさいつたが、元氣だな。子供は風の子だ。……おツ……此のお金は、お宮におさいせんに上げて来よう。」

ミ言ひながらお宮にまるつて、拍手をボンボンミ拍つて、ていねいに拜みました。さうするミ、向ふの方から、

僕らは風の子、日本男兒

ツラ、ツラ、

ツラ、ツラ、

ツラ、を 擔いで

ミつくわんだ。

イエー—— イエー—— ウオー——

ミ、威勢のいゝ子供の歌がきこゑて來ました。それを聞くミ、兵隊さんは、背のびをして、

「おおーい。大きくなつたらネ、強い兵隊さんになつて頂戴ヨ、ネエ……風の子の諸君……」

ミ、大きな聲で呼んで、帽子を幾度も幾度も振つて下さいましたミサ。ハイ。

オハリ

幼児の母



昭和十六年

三月

初卒業

幼稚園の修了は、學校の卒業といふこと、一つではありませんが、でも、お子さん達は卒業々々といつて喜んでおられるし、その方が可愛いらしく聞へたりしますね。兎に角く、二年なり三年なり一年なり、日課としてつゞけて来た通園が豫定どなり了つたのですから、お子さんとしても、さぞ嬉しくもあり得意でもありませう。その心持ちは、今日で幼稚園はお仕舞ひよといふだけでは濟まされません。殊に、生れて初めて斯ういふ形式で送られるのですから、晴れの卒業として存分に祝つて上げたくなりますね。

それに、幼稚園の方としては、形は遊びのやうでも、その中に盡された先生方の日々の心づかひは、そのお子さんの就學前の教育といふ大切なことを卒へて下さつたのですから、その御苦勞に對する感謝は、學校の卒業式の場合と全く同じ譯のものです。たゞ、何を覺えた、何が上手になつた、何の資格を得たといつたやうな、目に見えたものがない爲に、幼稚園の先生の御恩が、學校の先生の御恩の如くくつきりと數へあげられない風ですけれども、その數へあげられないところに、測れない深いものがあります。何にしても、お子さんにも先生にも、心からお目出度い三月です。

幼稚園から

○三月は、幼稚園の、うれしくもあり悲しくもある月です。入園はつい此の間と思ふのに、こんなに大きくしつかりなやつて、もう小學校、いゝえ、國民學校にいらつしやるのかと思ふと、更めてお顔をしげ／＼と見たくなる程うれしいことです。けれどまた、毎日あんなに楽しく遊んだのに、今月でもうお別れかと思ふと、ぐつと強く抱きしめたいやうな氣がします。が、そんなことはもう申しませぬ。お子さんに、悲しい顔なんか見せではなりませんからね。

○それでも、先生有り難うございましたなんて言はれることがあると、全くたまらなくなります。それはお母さまからお習ひになつたお言葉でせうが、お禮を言ひたいのは私達の方からこそです。可愛い、心の清い皆さんのお蔭で、毎日いい日を送らせていただいたのですもの。

わが子を良い子に

三、快活明朗な子

倉橋惣三

快活といひ明朗といひ、これは子ども
の通性といつていゝもので、格別養ふと
いつた譯のことではないやうですが、若
しも、さうでない子があつたら、何より
氣にかゝることです。しかも、時々、さ
ういふ子があります。少なくとも、もつと
快活であつて呉れたらと思ふことは、必
ずしも稀でありません。わけても、前回
に申した、眞實とか、眞面目とかいふこ
とが、さうかすると、快活とは反對のこ
とのやうに考へられてゐたりすること
あつて、子どもの此の通性が一ぱいに歡
迎せられなかつたりすることも無いでは
ありません。

快活になるともいへますが、快活の性質
だと萬事楽しくなるともいへます。こ
ろでその幸福は幸福であることで先づよ
ろこばしいことですが、それから、あら
ゆる良いものが、生れ出で、育てられる
ところに、第二といふか、次の大きな價值
が認められるのです。暖いと物が育つ。
やはらかいと物が育つ。明るいと物が育
つ。それと同じに、快活な心は善良の種
を生み育てる大切な條件です。

或る人は、そんな快活な人といふ條件
から生れるものは、淺薄なものだ、深酷
な、しつかりした善良は、寧ろ、嚴肅の
中に生れるといふでせう。それはさうで
すが、おとなのことです。どうせ淺薄か
も知れませんが、それが、幼い子どもと
しては、それでいゝことじやありません

手製榮養お八つ

厚生科學研究所
國民栄養部

佐々木 理喜子

早春のひさしが、御庭や御椽側にさし
こんでお雛様が近づきました。今年は菱
餅をお幸で作つて、皆さんで桃の花を色
形で切り抜いて、其の上に飾つて下さい。

(一)食パンのプティンガ

材料 食パン三五瓦(半斤ヲ三枚ニ切り、
一枚ノ半分)、牛乳五〇瓦(五勺ノ半分)
片栗粉四瓦、人蔘二〇瓦、砂糖五瓦、
以上で一六一カロリ

作り方 食パンはお残りのかたい物、端
を切り落したのを利用しても結構です。
小さく千切つて、少量のお湯を加へて煮
ます。人蔘は軟く煮て、搾汁をよくすり、
先に用意をして置きます。牛乳と人蔘、
水溶した片栗粉をパンにまぜ、砂糖を加
へて、全體をよく混ぜ合せます。鹽も少
少入れます。焦げない様にして鍋を火か
ら下し、温い内に御皿に入れて、スパン
を添へていただきます。

か。後を、だん／＼成長と共に鍛へられ
る必要はあります。その結果、ほんとう
に、しつかりした善良にならなければな
らないのは勿論です。しかし、幼児とし
ては、やはらかいふた葉のやうな、善の
芽生えこそほしいのです。快活はその善
の芽生えの爲の土やはらかき畑です。

その反對に、快活でないで、善良の芽
を枯らし、萎けさせ、曲げさせる危険が
あります。ひねくれは陰氣の産物であり
ます。意地わるは陰性のかびです。そん
なことが、少しでもあつてはならないの
が、幼児の心です。

さて、その通性の缺けてゐる子は、ど
ういふ譯なのでせうか。第一に、身體の
健康に故障があるかも知れません。消化
系統に障りがあるか、鼻どか咽喉どかに
障りがあるか、病氣といふ程でないとし
ても、さういふ故障の慢性状態は、最も
有害なものです。早くお醫者さんの助け
を借りるべきです。第二に、生活習慣と
して、子どもらしさを存分に發揮させら

れてゐない時です。暗い室内に、じつと
仕舞ひ込まれてゐる子、外へ出て思ひ存
分遊ぶことを許されぬ子。かういふと
ぎやくたいされてゐるやうですが、かわ
いが、れ過ぎてさうなつてゐる子が、却
つて多いのです。これは大に改めなけれ
ばなりません。第三には、それらのこと
が無くても、傍にゐるおとなが、不機嫌
な、濇い、にがしい顔ばかり見せてゐるこ
とは、幼児の折角の快活性を抑へたり
するものです。たりもするどころか、こ
れが一番悪い原因です。

さあ、あなたのお子さんは、どんな風
に快活ですか。その顔色は輝いてゐます
か、その動き方はきび／＼してゐますか。
その話し聲に張りがありますか。その笑
ひが暗れやかですか。若し、その反對に、
くもりや、のろ／＼や、たるみや、にぶ
みや、さういふ傾向が見えたら、充分氣
をつけなければなりません。一體、幼
子の心の訓育には何をした、何を言つた
といふ所謂行ひより、いつも、どういふ
風な氣分であるかと大切ですからね。

(二) 菱餅

材料 さつまいも八〇瓦、上新粉一〇瓦、

砂糖六瓦、以上で一五五カロリ

作り方 さつまいもは、蒸して皮をとり、
よくつぶします。一度裏漉しにかけると、
きれいになります。此の中に砂糖と上新
粉をまぜ合せ、四角い御辨當箱につめて、
平にして、上に布巾をかけ、二十分位蒸
します。程よく菱形に切ります。御皿に
二枚位重ねて盛り、上に桃の花を作つて、
木の枝につけたものをさします。

(三) お好み焼

材料 甘藷七〇瓦、メリケン粉一五瓦、

砂糖六瓦、ベーキングパウダー、食紅

少々、以上で一六四カロリ

作り方 甘藷で餡を作ります。メリケン
粉とベーキングパウダーを混ぜ、水を加
へ天ぶらの衣位にとき、二分して、紅白
にします。フライパンに油をひき小判型
に流して皮を焼き、餡を入れて三角に包
みます。

國民學校と家庭 (二)

前回は、國民學校の教育本旨に就て、家庭がしつかり心得てゐなければならぬ點をお話しました。

ところで、國民學校となつて、小學校と變るところは、教育の本旨ばかりではなく、その本質に基いて形また實際が異つて來ます。その一番大きな點は、「學科」といふものが無くなつて、「教科」になることです。「學科」が無くなるといつて、遊んでばかりゐるのではありません。學校教育としての内容は今まで以上に充實して來るのですが、それは知識や技能の學問的分類(だから學科)に基いた内容でなく、教育の目的からの教育分類(だから教科)を以てする事になるのです。これは、國民學校の本旨が一途專念に國民練成にある以上當然のことで、學問としての知識技能を、學問として授けるのではなくなるといふ譯です。その教科は——即ち國民學校の目的は分節して五つの方面に

されてゐます。國民科、理數科、體練科、藝能科、實業科といふのです。これと言ひかへて見れば、つまり、これらの各方面から國民に練成するといふことです。此の教科が更に分節して「科目」となつて來ます。その一例をいへば、國民科の中に修身、國語、國史、地理といふ分節(科目)があり、理數科の中に算數と理科との分節があるといつたことです。この科目はそれを一つ／＼別箇にして見れば、今迄の學科と似てゐる感じがします。しかし、どこまでも、それをその爲に學ぶ個々の學科ではなくて、修身、國語、國史、地理によつて國民科的方面からの國民練成が志ざされ算數と理科によつて理數科的方面からの國民練成が志ざされてゐるのです。この仕組は、國民學校の教育の實際の大きな特色として、しつかり理解されてゐなければなりません。

そこで、家庭としても、我が子が、學校で、それ／＼の學科即ち、學問の一つ／＼のやうなものを、離れ離れに學んで來る

ものとして指導したり、さういふ見方からだけ激勵したりしてはならないことになり、勿論、子ども個性的から、各々の方面に必ずしも均一でない傾向をあらはすでもありませんが、國民練成といふ、大きな教育目的からは、エリコノミ式に成績を分割して、得意になつたりしてはゐられないのです。

かういふことを、國民學校の教育學では、統合教育といつてゐます。從來の小學校でもそのほんとうの趣旨は、決して學科別一方ではなかつたのですが、各學科を立て、置いてその連關をはかるといふ程度だつたのです。それが、始めから統合されてゐるところに、お母さん方が受けた小學校の教育と大に異なるところが起つたのです。お母さん方も、よく國民學校の教育法を知つて置かないと、子どもの教育指導が出来ませんよ。その代り、それが出来たら從來より一層面白いのです。

月刊「幼児の母」に就て

幼稚園の家庭教育指導のはたらきの一助にも、昨年一月、月刊「幼児の母」を始めてから、もう一年になります。毎號甚だ不出来ですが、それでも各地幼稚園の御賛同を得て、月々、保護者へ配つて下さる方が多くなりました。あんな小さいものですが、従つて内容も簡單至極のもので、毎月一萬數千のお母さんに讀んで貰へると思ふに、大によろこんでゐます。ほんの四頁といふのも、忙しいお母さんの立讀みにもいふ、初めからの計畫で、手にされる方は皆、讀んで下さること、これが何よりなのです。

就ては、従來の方々は勿論おつゞけ願ひますし、新しい方々にもお願ひいたします。尚ほ、今までは毎月「幼児教育」で御覽の上の註文を本體に願つてゐましたが、もう大體お分り下さいましたこと、思ひますし、月々の御申込みは、皆さんの方にも御手数が多いことですから、半年分なり一年分なりまとめて御注文下さるやう願ひます。當方でも印刷部数の豫めきまつてゐるのですが、時節柄必要になりましたのです。それで新しい幼児の入園から新たに御配布の方も多いと思ひますから、四月を始めとして、四、五、六、七、三四月を一期、九、十、十一、十二、三四月を第二期、一、二、三、三ヶ月を第三期として下さる

たが御便利かと思ひます。一年拂は十一ヶ月分。

申込規程

一、御註文は十部を一單位として、實費を左の通り申受けます。

○十部 金貳拾錢（一部金貳錢）

○送料 十部まで三錢

二十以上送料不要

○十部以下の端數はおこしはりします。

二、御註文の節は部數三何ヶ月分といふこと、御送り致す宛名を特にはつきりお書き記し下さい。

三、右御註文のお申込みと同時に必ず前金でお拂込み下さい。本會の振替口座（東京一七二六六番）をお用ひ下さるのが御便利です。

四、お申込みお拂ひ込みは、東京市小石川區大塚町東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、日本幼稚園協會宛。

序に甚だ立入つたこと、のやうですが、御利用の仕組は（イ）幼稚園が保護者に無料で配布される場合、（ロ）實費を保護者銘々の負擔となさる場合、（ハ）幼稚園内の保護者會或は母の會等が費用を負擔をなさる場合等、その他いろいろの仕組があらうと思ひます。

充分御利用下さい。

幼 兒 の 衛 生

(三)

— 文 部 省 講 習 會 講 述 速 記 —

萩 原 兼 文

それでは今度は空氣の中のいろ／＼の煤煙でありますか、ゴミ、空中菌のお話を致します。斯う三つはお話の順序をしまして、別々にお話致しますけれども、實際をしましては常に一緒に居ります。畢り區別が出来ない。ゴミの中に黴菌がついて居る。そこに煤煙が入つて居るさいふこごになりなす。

先づ最初にゴミからお話した方がいゝかと思ひますが、一體このゴミを申しますが、我々の目に見えますゴミは、ゴミの中で非常に大きなゴミで、大體、十ミクロン——一ミクロンといふのは一ミリの千分の一——その十ミクロン以上ありません。我々の目には見えません。實際の數から言ひますと十ミクロン以下の小さなゴミの方が遙に多いのであります。大きいゴミは部屋の中が靜になりますと重さでもつて沈んでしまふ。けれども、小さいゴミは始終空氣に浮いて居ります。よく朝起きますと戸の節孔から光りがさして浮いて居るゴミが見える。あゝいふやうに大部分のゴミは下に落ちない、ですから我々の目で見えて居るゴミは數に於ては非常に少ないといふことが言はれます。それで普通ゴミを言ひますのは我々の目で見えるゴミを言ふのであります。飛んで居りますゴミを飛塵といふ名前をつけて居ります。一體、數はどの位あらうか、斯う思ひますが、數は兎に角、小さなゴミまで入れまして數へると逆も數へることは出来ない。田舎の空氣のいゝところの一立方センチを取つて見ましたが、それが何萬とある。ですから實際に、ゴミはどの位あるかといふことは數では言へないのであります。唯種類ですが、さういふ種類のものがあるかと言ひますと、戸外のゴミですと、大部分はその土地を形成して居るもので占めて居ります。従つて戸外の空氣のゴミといふものは寧ろ鑛物質のものが非常に多くて、所謂有機物のやうなものは少ない。無論、その中に黴菌がくつついて居りますけれども、兎に角、ゴミの種類としては

礦物質のものが非常に多いといふことになります。部屋の中のゴミは一寸違ひますネ、これはいろ／＼雑多なゴミになります。何時かデパートで聞いた話ですが、あゝいふところはキャリアアシテムといふ換氣装置で——空気が始終循環して居ります。冬は暖房夏は冷房といふやうに空気を洗つて、また入れるといふ大きなドラフトがあります、さういふところにゴミが引つかゝる網がありますが、その網にゴミが引つかゝつて居ります。それを一ぺん見て御覽なさいといふのですが、私もついぞ行きませんけれど、實に雑多なものが引つかゝつて居るといふのです。あゝいふいろ／＼の人が出入りするところにはいろんなゴミがある譯です。ですから例へば工場のゴミであります、その工場の生産物によつていろ／＼のゴミがあります。さういふゴミを我々が吸ひます一體どうなるか、私達が口をむすんで呼吸して居りますゴミは何處へ行くかといふは、先づ大部分は、鼻咽喉の粘液に附着してしまふ。さうして肺の中まで入つて行くといふのはホンの僅で、精々一〇パーセントかそこらです。また吐き出します息にも入つて居りますから、實際に肺の奥まで入りますのは精々一〇パーセント位のゴミしか入つて行かない。然も大きなゴミは全部くつついてしまひますから肺の奥まで入るゴミは非常に小さいゴミです。これを病理學の方から言ひますと、永年鑛山で働いて居つた人、或はセメントの工場で働いて居つた人、或は瀬戸物を造るところに居た人、さういふところで働いて居た人が假に年を三つて死にます。さういふのを解剖しまして、肺を見て、肺にぎの位のゴミがあるかを檢べた結果が報告されて居りますが、大體五ミクロンよりもつと小さいものが肺の奥に附着して居る。さういふやうに我々でも空気を吸つて居りまして多少肺の奥に沈著致しますが、生れたての子供の死體の肺を見ますと奇麗な薄赤い肺であります。年を三つた人の肺は少し青味がかゝつて、ドス黒い肺になつて居ります。畢り永年ゴミを吸つて、それが肺に沈著して居る。それも普通の人ですと大して濃い色ではありませんが、それが鑛山で働いて居ります人なごの肺は眞つ黒です。さういふ塵埃の多いところで働いて居る人の肺には塵埃がびくさん沈著して居ります。その塵はそれでは非常に身體のために悪いかと言ひますと、それはその吸ひますゴミの性質によります。それが若し化學的に有毒でしたら無論その中毒を起します。例へば鉛の粉さか、銅の粉さか、を吸つて居りましたならば鉛や銅の中毒を起します。さういふ工合にその物質によつて違ひます。また一般の場合に於ては——さういふ工場で働かない限りに於ては——さういふ塵肺の出来る筈がない。普通道路のゴミを一生かゝつて吸つたところで大したことはありません。また只今申しました非常に有害でなくとも、非常に小さなゴミで性質の硬いもの、例へば石の粉、

砒石、さういふゴミを吸つて居ります。化学的には有害ではありませんけれども、固く丸くないのでありますから、さういふ小さなものが肺の中に沈著致します。肺を傷けるのです。ですからさういふ砒石——砒石の肺——を造つて居る人が若し結核にかゝります。非常に病氣が速く進むのです。無論砒石の出来来すのは例へば鑛山、瀬戸物工場、陶土を砕いて居る所、或は石工、日本の石屋は手でつきますが、これを機械でつきます。非常に微かい粉が飛びます。さういふところでマスクもしないで何十年も働いて居ります。砒石が出来て来る。かういふ人が結核に罹つた場合は非常に速く悪くなる。それからもう一つは塵の中に微菌がついて居ります。微菌の大きさは三クロン、四ミクロン、二ミクロンが大體の大きさですが、肺の奥に入つて来ます。五ミクロン位のものにくつゝいて来ます。ですから若し假に呼吸器に關係ある結核菌が入つて来て身體が弱つて抵抗力が弱く、無論感染するのです。そこで塵の豫防さういふのはさうしたらいゝか。さういふ、これは成るべく塵は病原菌がくつき易いから、病原を吐き出すやうな、例へば結核患者が少し身體が良くなりまして外出し、旺んに痰を吐く、それが塵について浮いて居るさういふことになる。病原菌は無論日光に曝されます。死んでしまひますが、然し地下道なごでは相當生きて居るかも知れません。さういふ人混みのするところ、日光の當らないところは相當危険を考へる必要があります。

この頃、この都會に結核が非常に多い、それから都會には子供の空氣傳染病であります。チフテリアとか麻疹、猩紅熱、さういふ病氣がだん／＼殖えつゝあります。これは歐米でもさうである。なぜ都會に殖えるか。さういふ都會の交通量は多くなります。交通量が多くなればゴミの量が殖えて来る。ですからこれはさうしてもゴミに關係があるやうな氣が致します。ですから我々が健全であればその位のゴミを吸つても身體に抵抗力が充分ありますから心配はありませんが、身體が弱つて居るさか、或は虚弱な子供が人混みの中に始終出入りする。こゝは氣をつけなければなりません。よく冬になります。マスクを致します。これは人混みの中ですればいゝので、外の奇麗なところでマスクをする必要はない。この前、若い書生がマスクをするさは何んだ。さういふやうなこゝが新聞の投書に出て居りましたが、幾ら若くとも身體が弱ければマスクするのは當り前であります。まゝ中には理窟抜きでいろ／＼意地で批評する人がありますが、子供なんかを連れて外出して人混みの中を歩いた場合には必ず後に嗽ひをするさか、顔を洗はせるこゝは、必要なこゝだらうと思ひます。

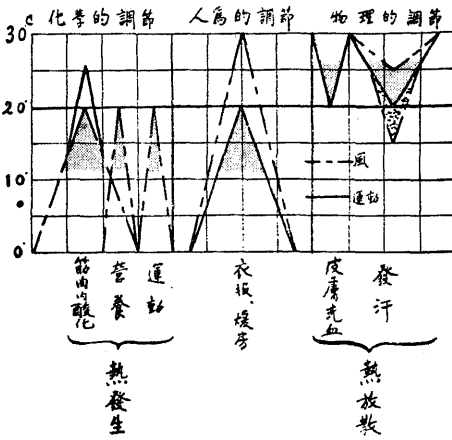
その次は煤煙ですネ、これはまアゴミと同じゴミですが、煤煙だけは都會の特殊で、田舎には煤煙は餘りありませんが、分けて斯うして話しますが、煤煙は大體このス、ミいふもの、このス、の主成分は炭素です。それにいろ／＼油の類もついて居ります。これはそのもの自體を我々がゴミとして吸つても大して心配はない。唯都會に煤煙が非常に殖えて來ますミ、さうしても天候が悪くなる。冬などは曇りさいふ日が非常に多くなる。畢り日光にだん／＼遠ざかる結果になります。これはあミで日光のお話を致しますが、大體我々が日光に當りまして日焼けを致します。一番日焼けし易いところは紫外線の中の三百ミリマイクロンのところが一番日焼けをする。畢り一番利き目の多いところが三百ミリマイクロン位です。この地上まで來て居るのは二百九十五ミリマイクロン位です。田舎の空氣の奇麗なところですが、丁度我々が日光浴をして效きます三百ミリマイクロン位のところがありますが、都會の曇天の日が多いミか、煤煙が多くなりますミ、そこが煤煙に吸收されて都會では三百ミリマイクロンのところはないさいふゴミになります。日光は當つて居つても、その中に有效な成分が非常に少ないさいふゴミになる。これが煤煙の一番大きな弊害であります。ですから煤煙の都言はれるロンドンでは煤煙防止ミいふことを旺んに言ひまして、工場で盛んに黑煙を出す煙突は何んミか焚き方の研究をする。この焚き方を研究するミ煤煙も少ないのです。この東京市で先年計りましたのを見ますミ、東京市内では一ト月の平均が一平方マイル當り煤煙が四十六トン落ちるミころがあります。一ヶ月です。一番甚いところは深川方面、少ないところでは三田田ヶ谷方面です。この方面でも十トン位の煤煙が落ちる。ロンドンでは、一ヶ月一平方マイルに對して二十二三トン落ちる。飛行機で東京に近づいて來ますミ判りますが、東京の上は眞つ黒になつて居ります。上に黒い霞が被つて居る。風が強ければその煤煙を吹飛ばしますが風の無い日には餘計煤煙の爲に曇るのです。さうしても都會としては煤煙防止を大いに叫ばなければならんミ思ひます。その外、煤煙の害はいろ／＼あります。いろ／＼な植物に煤煙がつきますミ煤煙の中のいろ／＼の有機成分がくつついて木が枯れます。木が枯れれば人間にも矢張り影響して來るさいふゴミになります。

○
その次は空中菌ですが、この空中にはザラに黴菌は居りますけれど、その内で我々に病氣を起す、所謂病的菌、この病的菌は非常に少ない。大部分はカビの類です。これは皆さんが簡単に實驗が出來ます。例へば蓋のあるガラス皿を湯で煮

て黴菌を殺して置いて、それに肉汁を入れた寒天を溶かしまして、平生は蓋をして置きますが、五分間、開けて、蓋をして置きます。大體二十四時間後黴菌の聚落が——黴菌の聚まりが——繁殖して來ます。そこで、外の空氣には——いろ／＼日光の作用もありまして——先づ病的菌が居るさういふことは、まアそんなに恐れなくさういふのです。唯狭い部屋の中に病人がありまして、殊に開放性の結核患者等が居ります場合には、その空氣の中には多少病的菌が居るものさ考へて戴きたい。それから地下道のやうな暗い部屋、さういふところに大勢の人が始終交通をして居りまして、よく痰を吐きます。矢張りこの病的菌が多少居るだらうさ思ひます。私は始終汽車で通つて、東京驛で氣がつくのでありますが、必ずホームを歩いて居りますさ思はず痰を踏んで滑るのです。今日でもあゝいふ——痰壺がありますのに——プラットホームに痰を吐く人が相當多いのであります。それでさういふところにさの位居るかさいふことは實際にそこを計つてみなければ判らない話で、またさういふ病原菌が居るかさいふことも大體居るだらう位のさしか判つて居りません、兎に角、開放されて始終日光のあたりますさころの空氣にはさう病的菌は居るものではありせんから、戸外の空氣を心配する必要はない。唯人混みの場所、暗い部屋は多少心配した方が宜しい。それから一體にこのいろ／＼病原菌が繁殖し始めますのは、大體溫度に關係がありますが、春先からだん／＼攝氏の十度以上になりますさ病原菌やガビが非常に繁殖力が旺盛になる。従つて春先は風が多いのでゴミも立ち易いのですし、病原菌が繁殖し易い、そこへもつて來まして冬の間は溫度が割合に低いので皮膚の表面の新陳代謝が悪い。ですから鼻の中の新陳代謝も悪い、新陳代謝が悪いさいふことは、そこにさうしても血液の循環が少ないのですから抵抗力が多少弱つて居る。ですから冬の寒い時から春先にかけて風邪を引き易いし、猩紅熱やデフテリアも春先に非常に多い。さういふ意味で夏になりますさ、寧ろ溫度が昇つて來まして皮膚の表面の新陳代謝が昂まつて來ますさ粘液は盛んに出ますから假に斯ういふところに菌がついても捨てるさが出来ます。冬の間は新陳代謝が悪いために空中菌に犯され易くなる。まアこれで大體空氣、呼吸するための空氣の考へ方についてお話が判つたさ思ひます。

○
 次は環境さしての空氣を考へなければなりません。それには先づ最初にさうしても我々は空氣の溫度、氣溫さいふものを考へます。

温度と体温調節



この地球上には随分暑いところもあります。攝氏で言ひますと約六十七八度、七十度近いところ、また寒いところではマイナス七十度位のところもあります。然し普通温帯地方であります零下五度とか十度位のものです。また暑くなつても精々三十五六度。ところで、この気温を考へます場合に一番考へなければならぬことは我々は温血動物の一種で、常に体温三十七度を保つて居るのです。さういふ場合に外の気温が暑くなつたり寒くなつたりしたらさうなるかさういふことです。この表は体温と我々の体温調節との關係、温血動物は通常外氣よりも体温が幾らか高いのです。外が三十七度になることは滅多にない、体温の方がさうしても高い、そこで若し假に温度が二十度前後でしたら我々は都合がよいのですが、十度、零度、零度以下に降つたら我々はさうなるかと言ひますと、上圖一番左のは体内でいろく、化學的の調節を致します。先づこちらの一番左の山は身體の中のいろく、の酸化現象です。酸化すれば身體に熱が出て來て温かくなります。筋肉内の酸化現象が益々盛んになる。また温度が降りますと我々はさうしてもカロリーの多いものを喰べたくなる。これは自然の要求で、さうしても酸化しますのいろく、必要な食料を餘計攝らなければならぬ。さういふ意味で營養が殖えて來るのです。次はさういふ風にした場合に、若し我々が裸體のまま居つたときは、假に温度を零度に低めて行きますと、我々は一體さうするか、幾ら營養を攝り、筋肉中の酸化現象を盛んにしましても動き出すに違ひありません。冬寒い時には皆集まつて震えて居る。さうしても動きたくなる。運動しますと筋肉の運動で酸化現象が盛んになりますから身體を温めることになる。ところで今度は圖の右側我々の体温さういふものは大體三十七度位でまけれ共、皮膚の表面温度は三十二度位のもので、假

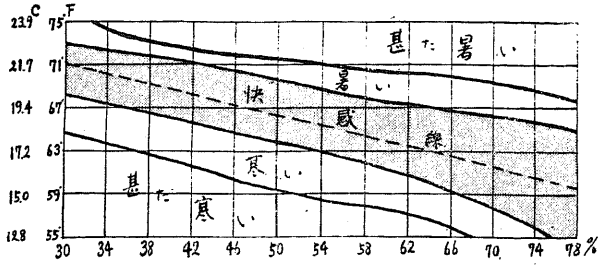
に外の温度が攝氏の三十度位に高くなつて來ますと、もう我々は裸體で居つていゝ譯です。皮膚温と同じやうになるまでまらなくなるのです。我々の身體には常に酸化現象は休むことなく始終熱が出來て居るのですから、一方が暑くなります

こゝ、早く熱を捨てなければならぬ。さういふ意味で温度が高くなります。皮膚の表面が充血して参ります。さうして汗が出ます。その汗の蒸發で、熱を外に捨てて居るのです。前は化學的の調節であり、これは物理的の調節をして居るこゝになるのです。次は中央、人間は元々裸體ですから毛もなければ羽もありません。若し毛があり、羽があれば、それを殖やしたり減らしたりして調節しませうが、人間はさうは行きませんから、人爲的に着物を着、もつゝ寒くなれば二枚三枚の着物を重ねて、これで調節するのです。もつゝ寒くなります。家の中に煖房を致します。要するに温度が非常に低くなります。皮膚の表面は成るべく擴がらなくて體温を外に奪はれないやうにすることに必要なんです。ですから寒くなります。さういふことより、この皮膚の表面もだん／＼收縮して新陳代謝も悪くなる。その代り血液は内臓の方に廻つて、内臓の方は冬いろ／＼なものを食べましても消化力があるのです。さういふこゝになるのです。今度は温度が高くなります。成るべく身體から温度を外に奪つてしまつた方がいいのですから身體を擴げた方がいいのです。熱を外に放散し易いやうにした方がいい、従つて皮膚の表面は新陳代謝が盛んになりますから内臓の方は反對に貧血して、御馳走を喰べ過ぎたり、活動をし過ぎるゝ直ぐ弱つてしまふ。腦貧血を起し易い、ですから着物なども夏は成るべく開放的な空氣の流通のいゝ着物を着た方が衛生的になるのです。

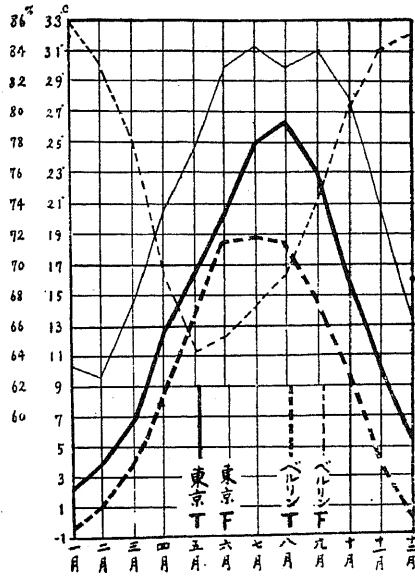
○

こゝで、これは温度だけで考へた大體の表ですが、我々は暑いさか、寒いさかといふ感じを申しますが、この感じは温度だけでは適確に決められないのです。大體は温度が標準ですけれども、寒暖計で計つてみまして三十度ありまして、涼しく感ずる時、暑く感ずる時とあります。それはさういふ譯か言ひます。結局この皮膚の表面から汗を蒸發させます時に空氣に水分があるか、ないか、風があるか、ないか、これが影響するのです。同じ三十度の環境でありまして、その場合に水分が非常に少なくて、風があります。皮膚の表面の蒸發が非常に易しくなります。こゝで水分が一ぱいあつて非常に湿度が高くて風がない、無風状態です。蒸發がしにく／＼になりますから、さうしても蒸し暑くなるのです。ですから實際我々の感じは温度だけでは決められません。大體は決められますが、寒暖計だけに頼るさういふ譯には行きません。一體、我々が快感を感じ非常に氣持ちがいゝ氣候だといふのはさういふ場合であらうか、こゝに書きましたのはこちらが温度で、こちらは湿度乃ち比濕です。湿度といふのは空氣の一立方メートルの中に含れて居ります水分を現存湿度

快感帯



湿度 (東京とベルリン)



云ひます。その湿度は夫々の温度で空気の中に含まれる最大量が決つて居ります。湿度が高くなれば水分も餘計にこります。それを飽和湿度と言ひ、この兩者の比を比濕と言ひます。この比濕を通常、湿度と言ひます。それで飽和状態のときは湿度一〇〇パーセントであります。畢り含み得る最大量だけ空気の中に水分が澤山あるこいふこゝであります。そこでこれは大體アメリカのパン、ヒルの

實驗ですが、大體この真ん中の點線が快感です。畢り感じがいゝのです。感じがいゝこゝは我々の體温調節が非常に樂なんです。これは生理學者の研究によります、人間の皮膚

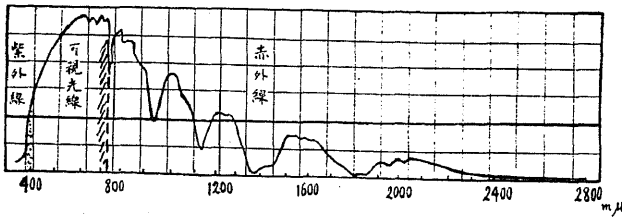
の表面一平方センチから毎秒一・五ミリカロリーの熱を外に捨てゝ居りますこゝ一番氣持がよいのです。ですから、この温度と湿度とは逆になつた方がいゝ、温度が高くなつた時に湿度も高くなつたら暑いのです。これは反對の方がいゝので、湿度も低いし湿度も低いこゝなります、これは寒くなります。

この東京で快感帯に入る氣候は何時頃かと言ひます、春ならば五月、六月のお晝前後です。秋ならば十月、十一月のお晝頃が快感です。右下圖にありますのは東京とベルリンの比較ですが、この黒い線が、東京の温度、細いのは東京の濕

度、點線の太いのがベルリンの温度で、細いのがベルリンの湿度です。下のは月です。左が一月、右が十二月、さうしますと東京では温度は夏の七、八月が一番高いのですが、東京の湿度を計つてみますと温度と同じやうに湿度も昇つて居る。これでは快感には入らないのです。ベルリンを見ますと湿度が逆に低くなつて居ります。ですから向ふの方が夏は涼しいのです。それに一つには日本には梅雨さいふものがありまして、夏に入ります前に雨が非常に多くて濕氣が多くなります。さういふやうな意味で日本の夏は蒸し暑いのですが、さうも日本の氣候を替へてくれさいふこまは言へないのでですから何か方法を講じなければならぬのです。それで家を建てますにも冬本位にしないで夏の場合を考へて風の通るやうに家を造る、夏餘り家が熱くならないやうに廂を長くする。或は西の方の壁を少なくする。(西の方の壁が一番熱く焼けますから) 畢り夏本位に日本の建築を考へなければならぬだらうと思ふ。これで大體お判りと思ひますが、この温度だけで暑いさか寒いさかさいふこまは少し早計ださいふのでありますが、それならば何か我々にその感じを現はしてくれるものはないだらうかとお考へになりませうが、それは一寸こまに持つて参りましたが、イギリスのレオナルドヒルミいふ生理學者の考へたカタ寒暖計さいふものがあります。これはさういふやうにして使ふかと言ひますと、これには線が二つあります。これを六十度位のお湯で温めますと、この線の、上の方は三十八度、下が三十五度ですから、この中のアルコールが上に昇つて來ます。よく拭いてこれを計らうさいふこまに靜止します。動かしてはいけません。さうしますと、だんく冷えて上の三十八度の線から下の三十五度まで下る。その通過する時間を計ります。さうしますと、このカタ寒暖計のうしろにカタファクターさいふものが書いてあります。このファクターを今の時間で割るので、さうして、その數が大體六位ですと快感です。これはさういふ理窟かと言ひますと、先に申しましたやうに人間の皮膚の表面から毎秒一平方センチに對して一・五ミリカロリー位熱を捨て、居りますのが丁度いふのであります。このファクターさいふものは何かと言ひますと、このカタ寒暖計が上の線から下の線まで降つて來る間にこの一平方センチから捨てる熱量を書いてありますから、それを時間で割りますと毎秒この面積か捨てる熱量が幾らださいふこまが判るのであります。それが六三出た場合、それはなぜ快感かと言ひますと、これは人間ミガラスですから一三四位違ふのです。ですから一・五掛ける四倍の六で、これは快感です。さういふやうな意味で温度だけでは考へられないのでこれでもつて計るのであります。またこの濕球で計る場合もありま

す。この濕球で計ります場合は温度の高い時であります。濕球で計ります時には十八さいふ數字が出た時が快感なんで

日光光線



す。つまり汗を出す様な暑い時は、蒸発の如何が大いに快感に影響しますから濕球をします。

そこで、次は氣壓の話について、もう一つ、例の川の底にもぐりまして工事をする場合、橋をかけます場合、川の底で潜函を埋めまして、その中で工事を致します。さうするに水の中にもぐりますに氣壓は二倍、三倍に殖えて行きます。畢り二氣壓も三氣壓もあるところで働いて居りまして、さういふところから急に昇つて來ますに潜函病を起して倒れます。

これは震災後、隅田川の橋をかけます場合に川底に沈んで何氣壓もあるところで働かなければならぬ。さうふ時に急に出て來ますに潜函病を起します。その時は大學の眞鍋先生が氣をつけまして、始終體格検査を致しまして、先づ働く時にはエレヴェーターで下へ降します。さうして精々一時間位しか働かさないうで上に出します。その出します時に急に出しません。徐々に空氣を抜いて、長い時間かゝつて、三十分も四十分もかゝつて普通の空氣にして外に出します。さうしますに今の潜函病に罹らないのです。この理は氣壓が高くなりますに、空氣中の酸素はドン／＼肺の中へ押込められても吾々は之を利用しますが、窒素は利用出来ませんので液狀で血液の中に溶け込みます、處が急に一氣壓になりますに此窒素がガス體となつて血管に残り潜函病を起すのです。それから風さいふものは氣壓の高い方から低い方に行くのですが、今のこの感じにも風が非常に影響して居ります。同じ温度湿度でも風の有無は吾々の感じに非常な違ひを生じます。蒸暑い時我々が團扇を使ふのはそれですネ。亦高い所で氣壓の低くなつた時の事は前に御話しました。

空氣のお話はこの位にしまして最後に光りのお話を致します。この光りさいふものは物を温めますにだん／＼光りが出て來る。初めは物を温めて赤い光りになります、だん／＼温度が昇つて來ますに、それが白色光になります。太陽は大體六千度位あるだらうさいふのでありますが、さうするに六千度の光りさいふこゝになります。

それで、この光りさいふものは皆さん御承知の通り波ですから、この波の長さ、波長で光りを計ります。こゝに書きましたのは地球上に來ます日光光線ですが、太陽から出て居るものもつゞ大きいものだらうと思ひますが地球に入りますと、上層部にはゴミがあり、オゾンがあります或はまた太陽の周りにもいろ／＼吸収線がありますので、こんな風になつて來る譯です。普通の波長の單位はミリマイクロンで現はします。さうしますと、この我々の目で見えます光りは四百ミリマイクロンから八百ミリマイクロンであります。プリズムで分けますと一番初めの紫は四百ミリマイクロンで赤が八百ミリマイクロンです。それで赤より波長の大きい方を赤外線、紫より波長の小さい方を紫外線と言ひます。分量から云ひますと赤外線六パーセント、可視線三九パーセント、紫外線一パーセントです。この赤外線さいふものは我々にさういふ作用を起すかさいふと、これは温める線ですから例へば日光浴を致しますと内臓を温めますから、その新陳代謝をよく致します。今までのところ餘り赤外線の研究はありません。生理的研究は割合に少ないのです。さいふのは光線の研究の難しいところは光りを分けることが難しい、それから、この可視光線は我々のこの目の網膜を刺戟する光線ですから、これは我々の感じから言ひますと可視光線の内でも一番真ん中邊、黄色とか緑あゝの邊が一番我々の目の網膜は感じます。畢り感じがいゝ譯です。感じが鋭いのです。この大體に於て四百ミリマイクロンとか八百ミリマイクロンが可視光線の限界度と申しましたがこれは人によつて多少の違いがある。例へば子供はもう少し外まで見える。老人になる少し見えなくなる。要するに非常に精神的なもの、可視光線は我々が精神上なければならぬもので、それが證據には人間を眞つ暗な中に入れますと幾ら亂暴な人でも靜になります。監獄に行つて見ますと亂暴な奴は、戸をビシャンと閉められますと、中が眞つ暗になつて何も見えない部屋に入れます。さういふ部屋に入れますと大抵靜になります。また世間で子供がヤンチャンを致しますと子供を暗い押入なぞに入れます。これは可視光線がその役割をして居ると思ひます。それから紫外線ですが、僅に一パーセントしかない紫外線はさういふ影響があるか、これは紫外線を身體に當てますと、例へば身體の中の血液の白血球が殖えるとか赤血球が殖えるとか、白血球や赤血球が殖えるさいふのは身體の中の抵抗力が増して來るのです。それからこの皮膚の表面にありますエルゴステリンさいふものが日光に當りますと——このエルゴステリンさいふのは一種の蛋白質でありますが——それが紫外線を受けますとビタミンDに變ります。ビタミンDは人間の發育成長に役に立つビタミンです。子供の發育、病後の回復期の患者にいゝのです。その外にいろ／＼殺菌作用を致します。畢り細菌は紫外

線が出て居ります。日光にあてますと大抵のものは間もなく死んでしまひます。さういふ殺菌力がある。唯この殺菌力は紫外線の中でもつゞつゞ波長の短い方へ行くほど殺菌力は強くなります。それで結局日光浴をしますと、熱線が身體の中に入つて來ますからいろ／＼新陳代謝を高め、氣持ちもよくなります。精神的に氣持ちがよくなりますと、これも新陳代謝を盛んにし、それから紫外線でいろ／＼殺菌力がありますから、例へば皮膚病のやうな場合、それを治療し、また疵口がありますと治りが早い、その外、日光浴によりまして、白血球、赤血球が殖えて來ます。従つて身體の抵抗力が強くなる。殊にこの結核素質の人、まア熱を出して居る時は日光浴はしてはいけません、熱がなくなつて、醫者もよく相談して、これなら日光浴をしてもいゝといふ上でなければしてはいけません、若し日光浴は差支へないといふ場合でしたら、この秋頃から足の先から日光浴をして、それからだん／＼に身體にも及ぼして行く、無論時間を五分、十分三延して、終ひには背中もお腹も日光に當てる。その場合頭だけは日光にあてゝはいけません。なぜならば紫外線は割合に物を透しまして腦細胞を害するからです。それからもう一つ日光浴で氣をつけないければならんのは目に直射してはいけません。大體、夏の日光浴と冬の日光浴との差があるかと言ひますと、夏の日中と冬の日中では大體五倍位違ひます。それから日光浴をする場合にどの位の程度がいゝかといふことですが、これは餘り汗をかゝぬ程度で初めから餘り急激にやらんことです。それからガラス戸を越してはいけません、必ず直射光線でなければならんのです。この頃では日光浴するに血壓が降るといふ人もあります、まだお話ししたいこともありますが、時間が參りましたからこれで終ることに致します。(完)

倉橋惣三著
育ての心
定價 一、五〇〇、一四
送料

東京、神田區駿河臺三丁目六
刀江書院

倉橋惣三著
幼稚園保育法眞諦
定價 二、八〇〇、一六

東京、神田區神保町一丁目六七
東洋圖書株式會社

倉橋惣三共著
新庄よしこ著
日本幼稚園史
定價 三、八〇〇、二〇
同上

倉橋惣三著
幼稚園雜草
定價 二、五〇〇、一四

東京、日本橋區、大傳馬町
内田老鶴圃

日本幼稚園協會編
幼兒に聽かせるお話
定價 三、八〇〇、一四
同上

日本幼稚園協會編
幼兒の楽しむお話
定價 二、八〇〇、一四
同上

最新 作曲 幼稚園唱歌集

定價 一六錢
送料 發行所 日本幼稚園協會

一、	コッキフレ	倉橋惣三	作詞	十二、	たんぼぼ	大森敏子	作詞
二、	幼稚園のお庭	倉橋惣三	作詞	十三、	すずめ	高城富貴	作詞
三、	だるまさん	相田正	作詞	十四、	チュリップ	久保紀子	作詞
四、	お洗濯	中山多	作詞	十五、	春が来た	池田孝	作詞
五、	汽車	土田晋	作詞	十六、	角拾ひ	宅富貴	作詞
六、	雲よ降れ降れ	辻繁	作詞	十七、	うさぎ	高城富貴	作詞
七、	煙	津村孝	作詞	十八、	七五三	土田千草	作詞
八、	てんとう蟲	坊村満	作詞	十九、	鬼ごっこ	高城富貴	作詞
九、	春	小水あ	作詞	二十、	お母さま	高城富貴	作詞
十、	お窓の雨	吉田ト	作詞	廿一、	てんてん	高城富貴	作詞
十一、	おはなし	井上武	作詞	廿二、	おんまり	高城富貴	作詞
		弘藤太	作詞	廿三、	春の野	高城富貴	作詞
		杉山龍	作詞	廿四、	花舟	高城富貴	作詞
		高城富貴	作詞			孝二	作詞

最新 作曲 幼稚園唱歌集の第二版が出来ました。本會宛てて
し〜御註文下さい。御注文の際は是非前金にてお申し込
み下さい。 日本幼稚園協會

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽一
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 附屬幼稚園主事 倉橋 惣三

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ萬志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ興ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)
 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應スルモノトス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十一條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十二條 本規則ハ總會出席會員ノ三分之二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面	一頁	二等面	一頁
半ヶ年分	金貳圓拾錢	一等面	一頁	以下	
六ヶ年分	金四圓貳拾錢	金拾五圓	御斷り		
拾貳冊分	金四圓貳拾錢	神田區駿河臺一ノ三品田			
拾貳冊分	金四圓貳拾錢	廣告社に御申下さい			

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)
 昭和十六年二月二十八日印刷納本
 昭和十六年三月一日發行
 幼兒の教育 第四十一卷 第三號

不許複製 禁轉載

編輯者 倉橋 惣三
 發行所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 常
 印刷者 柴山 則常
 印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林 舍

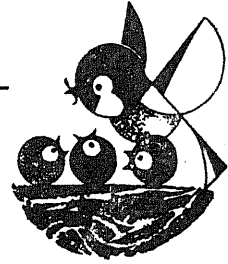
發行所 日本幼稚園協會

振替口座東京一七二六六番

定規文注

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には繰上割増)
 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越な願ひます。
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帯封に「前金切」の印章を押印いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

目書行發館ルベール



最、るけに於界育保兒幼もれ何は書版出社弊
 命生と力な撃真るれなに筆執の生先諸威權高
 。すまりあで籍書的心良たち充に
 はていに於界育保兒幼の下制體新時現に特
 。すまりあで以所るす獎推てへ敢と書の携必

書叢育保

修監生先三惣橋倉
 (四六判 1.00 千 6)

編四第	編三第	編二第	編一第
實 驗 保 育 學	幼 稚 園 の 手 技 製 作	自 然 物 お も ち や	膳 規 子 先生 著 菊地ふじの先生 共著 徳久孝子先生 共著
目白幼稚園保母養成所長 和田 實先生著	東京女高師教諭 及川ふみ先生著	同 幼稚園保母 及川ふみ先生著	同 幼稚園保母 及川ふみ先生著

幼兒性行評定尺度

淡路圓治郎先生著

定價 金 一 錢圓

幼兒發達檢査

淡路圓治郎先生 牛島 義友先生 共著
 吉田 虎彦先生

定價 金 一 錢圓

幼稚園律動遊戲曲譜集

大阪保育會編

定價 金 二 圓冊

附記憶感覺競爭遊戲・動作篇
 構成々分き
 主としたる
 第一卷 動作集(金三圓)・第一卷 曲譜集(金二圓)

子供の舞踊

石井漢先生著

定價 金 二 圓五十錢

シルエツトの作り方

鈴木重章先生著

定價 金 一 錢圓

館ルベール 株式會社

番二六六三(33)話電・二町保神・田神・京東 社 本
 番七二八三(24)話電・五町後備・區東・阪大 店 支

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可

昭和十六年三月二十八日印刷納本

定價 參拾五錢